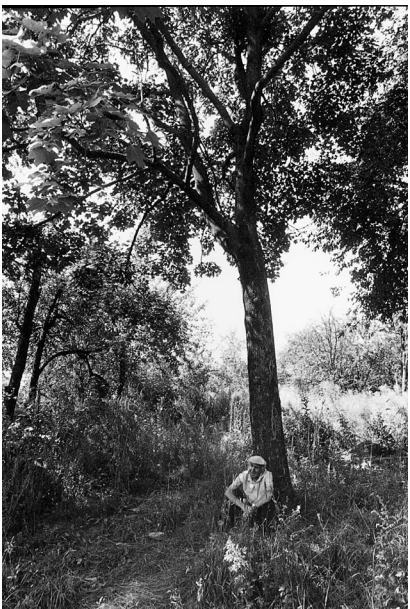




右に行ったら、命の水を
左に行ったら、死の水を
ならば、まっすぐ行ったらいい

サマゴンをひっかけたら
どっちだって同じさ
リングやジャガイモが、まっすぐ歩かせる

人は、受け取ったものを抱え
飲み込んだものを糧に
歩いていく

生も死も、夢も
芽吹きの際時にのせてみる
ふっと息をぬいて

チェルノブイリからイラクの子ども達へ



チェルノブイリの経験が、イラクの白血病の子ども達を救う支援につながる。私達は子ども達の笑顔、瞳の輝きにひかれながら、困難のなかにいる子ども達の命を助けたいと動き出した。



63号 春

CONTENTS

チェルノブイリからイラクの子ども達へ

JCF 理事長 鎌田 實	5
信州大学医学部とゴメリ医科大学が学術協定	10

特集 1 第 77 次訪問団報告 支援機器活用される	12
長期低線量被曝による世代を越えた問題も＜松澤重行＞	
小児がんとストロンチウム測定＜小池健一＞	20
ゴメリ州立病院からの医師招聘研修	22

特集 2 第二回アンマン会議 感染予防に取り組む	
JIM-NET 今後 6 ヶ月の支援計画＜井下俊＞	24

ナージャの輪通信	28
連載随筆「まなざしの臨界」＜宮尾彰＞	30
ジーマのロシア小話	32
ベラルーシの食卓	34
モスクワ便り	35
振替用紙のメッセージから	36
JCF 募金のお願い	41
ありがとうございました	42
「チェブラーシカのクリスマス」報告	45
出会い Встреча	46
粗忽堂本舗＜村石保＞	54
チェチェンで何が起きているのか	56
ビキニ水爆実験被曝から 51 年	58
ニュースクリップ	60
Здравствуй те! (事務局広場)	62
本の紹介 Book review	64
「2005 年 JCF スタディツアー」のお知らせ	66
事務局日誌	67

チェルノブイリから

中からユダヤ人が集められ、殺された
アウシュビッツを見ました。ホロ
コーストは、ナチスが民族の浄化を唱
え、ユダヤ人を大量虐殺したものです。
これほどまでに、人間の尊厳が否定さ
れ、命が無作為に奪われていった地に
立ち、その残酷な現場を見ながら、考
えさせられることがありました。

鉄条網で囲われた収容所には、鉄道
の線路が引きこまれ、途中で切断され
ています。この先にユダヤ人達の未来
は無かったのです。プラットホームの
ない終着駅で、家畜のように立ったま
ま身動きもできない状態で連れられて
きた人々が降ろされます。降りてくる
人々に向かって、ナチスの医師が手で
サインをし、振り分けていったそうで
す。働けるか働けないかが基準になり
ます。収容所の屋根の下に入ることも
なく、ガス室に入れられる子どもやお
年寄りもいました。ガス室の跡がその
まま残っていました。地面に掘られた

ガス室で、3年間に150万人の人々
が殺されていきました。

今年の1月末は、アウシュビッツ解
放から60周年でした。この強制収容所
を回りながら、寒さの中での生活がど
んなにか過酷であつたろうかと想像し
ました。柵のような狭い空間でたった
一枚の薄い毛布にくるまり、ふるえて
夜を過ごしていった子ども達がいまし
た。でも、子ども達の収容されていた
冷たくて、暗い施設の壁に、絵があつ
たのです。辛い毎日を過ごしたであ
ろう子ども達のために、大人達がこん
な絵を描いていたんだ。なんだか、ど
んな状況にあつても、絶望ばかりでは
無いような気がして、よけい辛くなり
ました。収容所の中では、一ヶ月後に
解放されると、時々、デマが飛んだそ
うです。しかし、一ヶ月経っても何も
変わらない。そんな時、高圧電流が流
れていると知っていても、鉄条網に向

イラクの子ども達へ

J C F 理事長 鎌田 實

昨年、大きな地震や津波が発生
し、たくさんの人たちが、家族や友達
を亡くし、住居を壊され、悲しみの中
で不自由な暮らしをおくっています。
自然災害が起こると、私たち人間は、
地球上で無力な生き物に過ぎないこと
を思い知らされます。進んだ科学が、
地震や津波を予知し、少しでも被害が
少なくなるように防護できたらいいな
と思います。

また、自然が人間社会を壊すだけ
でなく、人間が人間社会を破壊し尽く
しています。中東の国々では暴力が間断
なく続いています。大津波に父や母が
のまれていった子ども達の叫び声と共
に、砲火の瓦礫の下に怯え、ふるえて
いた子ども達がいることを悲しく思い
ます。

僕は、長野県の茅野市にある諏訪中
央病院で地域医療に取り組んでしま
した。30年間、病気の方たちとつきあ
つてきて、病気を治すのは、薬・手術だ

けではないと思うようになってしまし
た。何よりも一番大事なのは、生きよ
うとする意志、治ろうとする気持ちだ
と思います。体の中には免疫機能とい
うシステムがあつて、自分自身が無意
識の中で、治ろうとする細胞を活性化
したり、刺激を与えたりします。人間
が生きることには科学では解明されない
不思議な力が働いています。ホッとす
る「安堵感」や心から解放される「笑
い」が免疫力を高めてくれるのです。
体と心はつながっています。笑いや
希望が命を支えてくれているのです。
命を守ってくれる三つのつながりは、
体と心、人と人、人と自然。どれも大
切なつながりです。そしてこれら三つ
のつながりが平和の下にあることなん
だろうと思います。

今年は、戦後60周年にあたります。
2年前、ベラルーシ共和国の隣にある
ポーランドに行きました。ヨーロッパ



かつて走る人がいました。自死です。明日が見えなくなった人々の混乱は、想像を絶するものがありました。しかし、それでも、生き延びた人がいることも知りました。

ベラルーシの大地を車を走らせながら、フツと思いついたことがあります。『希望』という形のないものは、どんな状況下でもやってくる。それは、実態のない想念に捕らわれているときよりも、普通に毎日繰り返してきたことの中にあるのではないかという事です。一枚しかない衣服を泥を払って丁寧に着ることか、歯ブラシを取り上げられても、水で口をすすぐ。何でもないことが、命と実生活をつないでいました。

チェルノブイリの汚染地の病院で、小児血液病棟を立ち上げ、たくさんの人に慕われながら白血病の子ども達の治療に奔走したタチャーナ・シュミヒ

ナ先生もそうでした。「病院に入院している子ども達はみんな一緒。同じように生きたいと思っているわ。私が勉強するので日本から応援してほしい。私たちがこのベラルーシで子ども達を救いたい」と言いました。

まったく同じ言葉を2月の第2回アンマン会議の席上で聞きました。総選挙直後のイラクから出国されたドクター達は、「イラク国内で子ども達の治療ができるようにすることが大切だ。そのための話し合いをしていきたい」と言われました。何もない、薬も医療機器もないイラクで黙って死んでいく子ども達を現地のドクターの手で治療できるよう応援したいと思っています。そのために、これから半年間、双方で協力し、白血病の子ども達を救う土台作りをしていくことになりました。

広島・長崎、アウシュビッツを二度と繰り返さない。地球上の人為による

悲劇を二度と繰り返さないために、僕たちは戦後60年を検証しなければならんと思います。「ヒバクシャ」からみえる不条理、人の命が蹂躪されることを検証していきます。

来年はチェルノブイリ原発事故が起きてから20年、JCFは設立されて15周年の節目となります。今年度は戦後60周年を、JCFの活動から見えてきたものを絡み合わせ、考えていく計画です。平和と環境について学びながら、苦難の中にいる子ども達の命を、少しでも支えていきたいと思っています。皆さんからのご支援をよろしくお願いいたします。また、提案企画などありましたら、お寄せ下さい。



特集 1

第 77 次訪問団報告

支援機器活用される



ゴメリ州立病院附属産院の未熟児出生率が改善されつつある。
現地医師と話し合いながら、日本から贈った検査機器は更にお
母さんと赤ちゃんのために働き出すだろう。



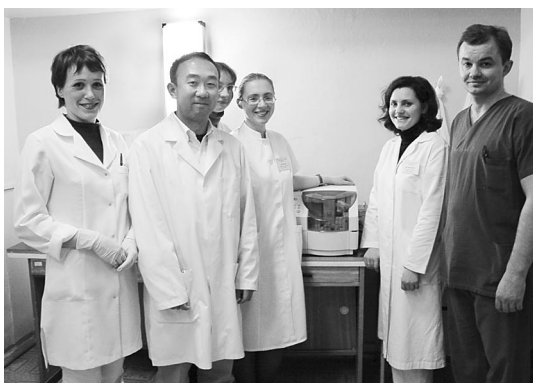
調印する倉科教授（ゴメリ医科大学にて）

1月31日（月）、ベラルーシ共和国
ゴメリ州ゴメリ医科大学と信州大学
医学部が、学術協定に調印した。信州
大学医学部とゴメリ医科大学は、J C
Fのチェルノブイリ被災地への医療支
援活動が縁となっている。医学部の小
児科、内分泌外科、呼吸器内科、歯科
口腔外科の先生達が、州立病院やチェ
ルヌスク地区病院での健診や治療
を、現地医師と協力して行ってきた。
ゴメリ医科大学は、91年にチェルノ
ブイリ事故による健康被害を懸念して
新設された医科大学である。長期にわ
たつて調査していかねばならない
低線量被曝に対して、両大学間が協力
して調査したり、学生や研究生の交換
などが行われるよう期待される。信州
大学医学部国際交流委員長の倉科憲治
教授（JCF理事）は、ゴメリ医科大
学ジャバルナツク学長と調印書を交わ
し、「今後、中身のある交流を進めま
しょう」と挨拶された。

2006年はチェルノブイリ事
故から20年の節目の年となる。
本橋成一さんは、この間、3冊
の写真集、2本のドキュメンタ
リー映画、2冊の児童書を著し
た。今、これらの仕事を括って、
撮影時からその後をまとめるた
めにカメラを回している。ベラ
ルーシの大地に暮らす人々の変
遷から、私たちが関わった15年
が見えてくる。



「ナージャの村」で撮影する本橋成一さんと山崎伸一さん



ゴメリ州立病院産院スタッフと松澤医師

長期低線量被曝による 世代を越えた問題も

松澤 重行（小児科医師）

◆波乱含みの出発

12月だというのに、関東沖を通過した低気圧が運んできた南風の影響で、朝の東京は27℃という夏日でした。激しい雨は上がったものの、強風のたぐいに成田へ向かう特急がなかなか進まず、今度は冷や汗をかきましたが、何とか出発前に成田空港カウンスターにたどり着けました。こうして私の5回目の渡航は波乱含みで始まりました。

ウィーンからミンスクへ増便されたため、やや強行軍ではありますが日本を発った日の深夜にはベラルーシに入

12月5日から10日まで、小児白血病と新生児支援のために小池健一医師、松澤重行医師、小児がんの子どもの骨標本の放射能測定をするために信州大学ヒト環境科学研究所支援センターの簗手吾一さんが渡航した。

ることができるようになり、仕事がしやすくなりました。夜遅くのミンスク空港では吐息も白く、寒さを感じましたが、前週末までの寒波が去って例年通りの初冬の気候とのことでした。入国ゲートにはいつもお世話になっているイリーナさんの顔、車に揺られ市街地に入ってくるにつれて増える街の灯が映し出す1年ぶりの懐かしい風景……。長旅の緊張感が徐々に抜け、自分がこの場所にいることに違和感を感じませんでした。

◆周産期医療の向上

翌日、朝食を済ませ、ミンスクで仕事を行う小池先生、簗手さんと別れ、ゴメリに向かいました。雪の残る黒い平原、小麦畑の緑の芽、白く凍った川、蒼くとがった森、集落の赤い屋根をいくつも通り過ぎて、午後、ゴメリに到着しました。

午後4時に来て欲しいとの連絡があり、薄暗くなり始めた市街地を抜けて州立病院へ向かいました。病院敷地の片隅にある4階建の産院の屋上にはクレーン車の影があり、私たちはいつもとは違う建物に案内されました。敷地内にはいくつも似たような建物があり、「あれっ、自分の勘違いかな？」と頭の中が混乱している横で、セルゲイ先生が、産院設備を修理するため数か月前に隣の建物に移動してきたこと、この工事は2006年に完成する予定であること、などを説明してくれ

ました。以前も書いたと思いますが、ベラルーシ国政府は、ここ2、3年、こどもとその母親の医療を大切にしよう、というスタンスで、少しずつではあるが周産期医療にも力を入れるようになってきているとのこと、そのために、来るたびに少しずつ変化がみられます。

◆支援機器の活用

さっそく産院院長室へ通され、スベトラーナ産院院長（兼州立病院副院長）、セルゲイ先生から、今回JCFから贈った超音波機器、血液検査機器への感謝の言葉をいただきました。今回贈った超音波機器は優れたドブラー機能（血流量や血圧を測定する）を持っており、胎児の状態を把握して胎児の仮死状態や死亡を避けたり、新生児の心臓や脳の評価を行って適切な治療を行うために役立ちます。もちろん解析能力も高いので、体内の形態観



ベラルーシのテレビ局からニュースの取材を受けた

床工学士（ME）の藤牧さん、樹神さんに機械のセッティングをお願いしていたので、私は検査試薬を持ってきて実際に測定をしてみる、という楽な立場のはずでした。けれど、検査科医師たちからは矢継ぎ早に質問が飛び交い、私は機械のメカニズムにあまり詳しくなかったので焦りました。しかし、実際に検査を行ってみた途端、検体量の少なさ、検査の迅速さに驚きの声が上がリ、その後、私の説明にも不安を覚えたのか、彼らは真剣にマニュアルの説明図に見入っていました。

産院スタッフからの感謝は言葉だけでは終わらず、夕食に招待してくれたり、ベラルーシのテレビ局に連絡して、ニュース取材に駆り出されたりもしました。3日間のゴメリ滞在中、病院に行くと、いつも丁寧に対応してくれました。

「これを選んで持ってきたのは私たちですが、ベラルーシにいることもた

ちを助けようという思いを持った人が日本にはたくさんいることの結果なのです」と伝えると、大きくうなずきながら「とても良い機械をもってきてくれてありがとう。きつとこの国のこどもたちの将来に役に立ちます。日本のみなさんによくお礼を言ってお欲しい。」と話してくれました。現地の医療スタッフの医療レベルが上がることで医療成績を上げることが支援のひとつの柱にと考えていますので、「私たちのやる気を高める、という点でも、非常に大きな贈り物でしたよ」と言ってくれた言葉が、私には一番印象的でした。実際に5年、10年後の生存率の向上、後遺症を持つこどもの減少につながってほしいとの思いで、良い相談者、アドバイザーたることを心がけながら、今後も関わっていききたいと考えています。



支援した血液成分分析装置

察にも優れています。母子の健康、さらには後遺症を残さない医療を、という私たちの願いを叶えてくれる強い味方と考えて選びました。彼らはすでにこの機械を使った診療計画をたてており、これまで使用していた超音波は外来で妊婦スクリーニングのために利用し、新しい機械を病棟で稼働させ、産科、新生児集中治療の両部門で共有して診療レベルを上げていきたい、と熱く話してくれました。彼らが新しい医療機器を良く理解し上手に利用する意志と能力を持っていることを、私はこれまで何度かみせつけられてきました。（二昨年、旧型の超音波機器を贈りましたが、彼らはその年のうちに、新生児集中治療科医師10名全員が国内専門施設で研修を受け、新生児の頭部（脳）診断技術を身につけ、私たち以上に自在に機械を使ってこどもの診断、治療に利用していて、驚きでした。）

最大限利用していけるように勉強します。いろいろ教えて下さい。」との言葉は私の心に強く響きました。

血液検査機器については、これまで州立病院の検査部で検査を行ってきたのが、これまで産院で利用してきた検査機器をあわせて、病棟の1階に小さな検査室を置くことにしたと説明を受けました。私たちがこの機械を選んだのは、これまで、血液検査を行うときに必要な血液検体量が多いために（体重1〜2kgのこどもから1回5ml以上）血液検査自体が逆にこどもに負担をかけてしまったり、そのために医師が必要と思う検査であっても躊躇（ちゅうちよ）してしまつたためでした。新しい機械ではこれが大きく改善し、1項目あたり血液0.05ml以下で測定ができるため、必要なときにこどもへの負担を少なく検査を行うことで、医療者も適切な判断が行いやすくなります。今回、機械は船で運び、私たちの前に渡航した臨



独特の、ぐるぐる巻きスタイルの新生児

がら支援を続けていきたいと思えます。そして、このような工夫された支援は、年月をかけた協力の積み重ねによる相互理解があつてはじめて生まれてくるものですから、国際医療協力は継続もまた大切であることを再認識しました。

◆放射能汚染の現状と課題

被曝による汚染の問題について、チエチエルスク地区衛生局放射能汚染研究所にタチアナさんを訪ねました。(以前からJCFの活動に、とくに放射能汚染の情報提供などで協力して下さっています。) 最近の食物汚染状況について質問すると、森のキノコ、イチゴ、牛乳、牛肉、ジャガイモ、ニンジン、穀物の粉末…多くの食物中のセシウム量は10年前に比べて低下しており、許容レベル以下になっている(キノコは低下していない)とのことでした。しかしたくさん食べれば体内の蓄積量は

増していくことには違いありません。実際、汚染の強かった地域では、今も変わらず、キノコやイチゴなどを摂取しないよう勧告されています。しかし、食べようが食べまいが見た目は何も変わらず健康であるという理由で、食べることをやめない人が多いとのことでした。個人農場で義務づけられている食品の放射能測定を無視する人が増えており、生活者の健康啓蒙に苦慮している、とタチアナさんは曇った表情で話しました。

事故から18年が経過し、事故に関連した話題は少なくなっています。しかし、近年、被曝による世代を超えた影響を示唆する問題がいくつか指摘されるようになってきています。1990年代後半から、WHOやロシアなどは、事故による被曝の問題を明らかにし、問題視するようになってきました。2003年のチエチエルノブイリの医療従事者国際連合(WHO、IAEAなど



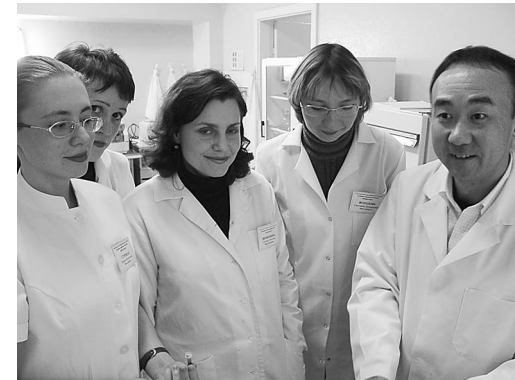
支援した機器を使う産科セルゲイ医師

◆現状に対応した 支援の継続を！

世の中は大きく変わってきており、緊急度からいえばベラルーシよりも支援が必要な国はたくさんあると思います。ではベラルーシの問題は解決したのか?といえば、そうではないはずです。医療だけをみても自国だけで解決できない問題は山積しており、例をあげれば、未熟児の救命に必要な高価な薬品は配給制であるため、投薬の必要な子どもがたくさんいるのに、実際にはその中から助かりそうな子どもを選択して使用するしかない、というような悲しい事実が今も変わらずいくつもあるのです。

カシム院長からは、世界の各国の医療協力プロジェクトについてお話を聞かせてもらいました。現在、ゴメリ州立病院全体では約10〜15の海外からの医療協力があるようです。海外からの

支援は年々減少していますが、支援の形態は以前とはだいぶ変化してきているようです。たとえば、こどもの医療に対する協力をみても、イギリスのNGOによる里親制度(発達障害のため親に捨てられたこどもの里親を探す、新しい家族の生活の場を経済的に支援したり、新生活に伴って生じる問題へのカウンセリングに関わる)、スイスの公的機関による母子医療支援(専門家チームがベラルーシを訪問して学術会議を開くことによつて学術・技術面の支援を行う)を紹介してもらいました。単なる物的支援を超えて、国の現状に対応して工夫されたものであり、私にはとても参考になりました。(JCFのMEチームによる現地医療機器の定期的なメンテナンス活動はこれらに劣らぬ誇らしい活動だと思います。) 私たちも、日本の代表として、多くのかたがたからの善意をどのように現場に届けることがよいのか、常に考えな



現地スタッフにレクチャーする松澤医師

による）主催の国際会議では、身体障害者の認定を受けたこどもが増え続けていることが確認され、甲状腺の病気の他にも神経系、精神疾患などが増加しており、周産期においても出生前の死産や新生児死亡率の増加が報告されています。

放射能汚染の評価を難しくしているのは、放射能以外に、種々の環境の変化（工場排水による魚の汚染、排気ガスなどによる大気汚染、環境中の内分秘攪乱物質など）、さらに生活の多様ななども人体の健康に影響しうることと、放射能被曝だけを取り出して健康問題との関連を明らかにすることは難しい問題です。

しかし、胎児や新生児は、外部からの刺激に対する感受性が強いいため、放射性物質にしても環境ホルモンにしても、成人とは異なる影響の及ぼし方をすることが指摘されています。つまり、母親の体内蓄積量が成人にとって

は許容範囲内でも、こどもに影響する可能性は否定できないのです。さらに、事故当時こどもであった、あるいは母親の胎内にいた人たちが成長し、今度自分が出産する、という時代に入ってきた。長年の低線量被曝によって、世代を超えた問題が起こるのか、私たちはこれから答えを見つめるべく注目していかなければなりません。医療協力の現場でも、この点を心に銘記してこどもたちの成長に関心を持ち続けたいと思います。

時間が経って、緊急性、話題性という点では世の中の関心は薄れてきていますが、未曾有の原子力発電所事故の影響について人類はまだ答えを出し終えてはいないのです。

ベラルーシを去る日。ミンスク国際空港で、私たちの出発間際まで、ロシア語で書かれた出生統計報告書を日本語に訳し続けてくれた通訳のリュウダさんの優しさに、感謝の気持ちでいっ

ばいでした。滞在期間中に何度か病棟を見学しましたが、訪問するたびに、入院している患者さんの病状について、こちらの意見を求めてくれることが多くなってきたことを感じます。適切な時期に適切なものを選んで支援ができた、という実感はありますが、それ以上に、交流を重ねていくたびに少しずつお互いが理解し受け入れあえるようになってきた結果なのだと思います。私がベラルーシの医療支援に加わらせていただき周産期の支援をはじめから3年、石の上にも3年とはまさしくこのことか、と思います。正直なところ、これまでは暗中模索の状態でしたが、今回、はじめてJCFの支援の仲間に入れたような気持ちになりました。飛行機の窓からみえる青と白の大地をみつめながら、満足感とお別れの寂しさとで胸がいっぱいでした。

第 77 次訪問団支援薬品リスト

国立小児血液がんセンターへ

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ・ファンガード点滴用（免疫抑制剤） | (50mg × 10) × 5 |
| ・パリエット（胃潰瘍防止剤） | (20mg × 100 錠) × 1 |
| ・プログラフ（免疫抑制調整剤） | (1mg × 5 管) × 5 |
| ・ファンギゾン（抗真菌性抗生物質） | (50mg) × 10 |
| ・ポリグロビン N（ヒト免疫グロブリン） | (50ml × 1) × 10 |



た。
予想外だったことは、骨腫瘍とカルテに記載されているだけで、詳しい病型が記載されていません。サンプルの量が十分ではないものもありました。今回の分だけで予測するのは難しいですね。

今回の測定では、溶かすところが非常に難しかった。専門家に聞いて、引火性のあるもので溶かす方がいいかもしれないと思います。
センターには、97年以降のものが集まっていました。もしそこから、放射線が測定できたら大変なことになります。病型データもそろっている。パラフィンではなく、単に冷凍しただけです。すぐ測定系に入れます。
ストロンチウムは半減期が30年ですからストロンチウムが測定できるかもしれませんね。

医学的な調査は、次年度夏には結果が出ると思います。調査研究だけでなく、支援が必要です。しかし、今ではゴメリ州立病院でもPCR法（遺伝子増幅法）が入っています。進歩しているんですね。遠隔医療によるケースカンファレンスで充分になると思います。クスリを持っていくといつも

空港税関でトラブルになるのが問題です。改善が望まれます。持っていた薬品の治療成績の調査もきちんとしなければなりません。G—CSF、FK506、ファンガード（抗真菌薬）はとても重宝されています。ベラルーシの経済状態も非常に良くなっているのので、2、3年を目安に支援するのはどうでしょうか。
また、物資支援だけではなく、現地ドクターからの症例検討の相談はよく受けます。今回も待っていたようです。衛星通信はゴメリは順調だが、ミンスクはレギュレーター（電圧安定器）が壊れたらしい。調べて復活しよう。
小児がんセンターは、免疫抑制剤と抗真菌剤が現地では購入できないので、衛星通信で要望を聞いて、支援したいですね。ゴメリはG—CSFを贈りましょう。

次回の調査は、夏休みになりますね。

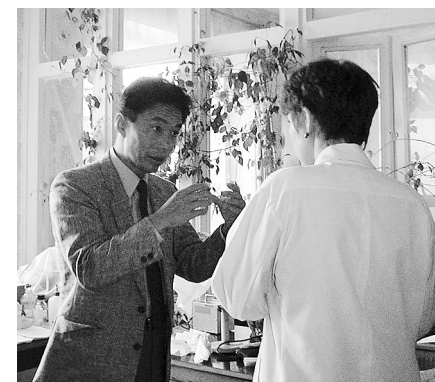
（談）

小児がんとストロンチウム測定

小池健一医師が、昨年から進めているベラルーシの小児がんとストロンチウムとの調査について、第77次訪問での測定結果と今後の予定をお聞きした。

また、来年2006年はチェルノブイリ事故から20周年の節目となる。チェルノブイリ事故の放射能被害が子ども達に与えた影響について、医学的観点からどのようにみられるか、今後の支援活動についてもお話をうかがった。

小池健一（信州大学医学部小児科医師）



今回集まった標本は、11サンプルありました。パラフィン切片として保存されていたので、水の中に入れて測定したり、液体シンチレーションカウンターで調べました。水をコントロールとしてみると、3例かなり高い値がありました。ここまでは簡単にできました。その後、パラフィンを溶かして、骨の部分だけを取り出して放射能が出るか、いろいろやってみました。ダ

メでした。持っていた溶液では骨が十分に溶けずにストロンチウムかどうか解りませんでした。

β線はストロンチウムから出るもので、多分そうだと思いますが、確定するわけにはいかないというのが今の状況です。

標本は、91年から96年に取ったものです。亡くなった子どものものだけでなく、手術で採取したものもあります。各地で保存されていたんですね。

これまでに、このような測定はまったくやっていません。液体シンチレーションカウンターがないし、土などの中のストロンチウムは測っていません。病気との関係では調べていません。今後の調査で数値の高い子どもの居住地が汚染地か否かも調べる必要があります。

ミンスクのドクターは非常に強い興味を示しています。昨年、10例以上センターで冷凍保存が始まりまし

特集 2

第二回アンマン会議

感染予防に取り組む



イラクの小児白血病の発症と病院の状態について聞いた第一回アンマン会議を踏まえ、第二回支援会議を開いた。13人のイラクのドクター達と今後の具体的な支援について検討した。

しょうへい 医師招聘研修



(左から) 片岡院長、イーゴリ医師、アンドレイ医師

ゴメリ州立病院から、2人のドクターが日本に研修にやってきた。徳島日赤病院が途上国からの医師を招待し、研修する事業をJCFがコーディネートする。

JCFの活動がハードからソフトへ移行しつつある時、ありがたい協力体制となった。徳島日赤病院での研修はベラルーシの医療知識と技術の向上におおいに役立っていくことだろう。

二昼夜の旅で関西国際空港に到着

◎三月一日

関西国際空港の到着ロビーに二人のドクターが現れた。オドナコソフ・イーゴリ先生（42才）は音声器官病理学が専門。チエルノブイリ被災地で甲状腺手術をした患者の発声トレーニングや耳鼻咽喉科の手術後をケアしている。ネムチン・アンドレイ先生（41才）は一般外科医。アンドレイ先生が手術した後、イーゴリ先生がみていくケースが多いそうだ。二人とも、190cmと192cmと長身でバレーやバスケットが大好きだという。壮観なスポーツマンのお二人は「ゴメリを出発して二昼夜です。長かった」と言いながらも、関空から徳島に向かうバスの車窓から、日本の景色を面白そうに眺めていた。

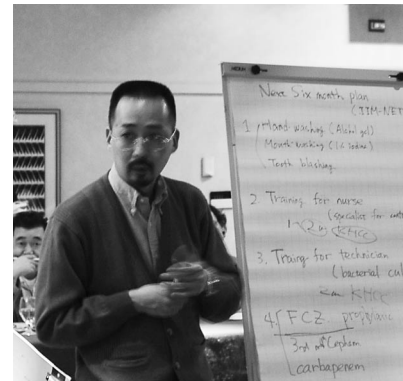
◎三月二日

徳島日赤病院副院長の日浅芳一先生の暖かい歓迎を受けて、ドクター達の顔がほころんだ。100人の医師が毎朝集まる朝礼で、片岡義彦院長から紹介され、英語で挨拶。「我が病院のドクターは皆英語でのトークができますから、安心してください」という院長のことばに会場はどっとわいた。

院内と宿泊施設を案内していただき、暖かい対応と万全な準備があった。病院の研修医ルームに二人の机が準備されていた。若い研修医達と日常的に話すことで、お互いに刺激になれば、と配慮されたものだった。手術室に案内されると、なかなか出てこない。とても興味深かったようだ。図書室の文献やインターネットでの検索で、たくさん医療情報も得ることができる。意欲的な二人が三ヶ月で充実した研修を受けられるよう、願っている。

JIM-NET 今後6ヶ月の支援計画

いのした しゅん
井下 俊
(JIM-NET ヨルダン医療コーディネーター)



2月12、13日にヨルダンの首都アンマンで「日本イラク医療支援ネットワーク」(JIM-NET)第2回支援会議を行った。
昨年8月に行った第1回会議から、支援した薬品や機材がどのように使われているか報告してもらい、更に2005年の支援協力をどのように行うか話し合う事が目的だった。1月30日、イラクでは総選挙が行われ、連日、テロによる死傷者が出ていると報道されている。果たして、今回は会議が開けるだろうかと心配だった。
しかし、丁度同じ時期にがん学会がアンマンで開かれ、バスラ・バグダッドから来られたドクターとアンマンで研修しているドクター13名が参加した。夜の会議に出席できない子ども福祉教育病院のドクター達とは、別途話し合う場を設けた。日本側からも総勢16名が参加し、具体的な支援目標を長期・短期的に設定し、共有化しながら話し合いを進めた。

2月6日より、井下俊医師が、アンマンにJIM-NET事務所を開設して、医療コーディネーターとして、支援プログラムの進捗管理を行うことになった。

イラク医師達とも信頼が篤い日本国際ボランティアセンター(JVC)・アンマン事務所の原文次郎さんと組んで、より有効な支援活動が展開されるであろう。

(事務局・神谷)

2月12、13日にヨルダンのアンマンで行われたJIM-NET会議にて、今後6ヶ月の支援計画が次のように決定された。その決定理由、内容などについて報告する。

JIM-NET今後6ヶ月の支援計画

- ① 成分採血装置の提供
- ② 手洗い、うがい薬、歯ブラシの提供
- ③ 感染予防専門看護師の育成
- ④ 細菌培養検査技師の育成
- ⑤ 抗生剤の提供

決定理由

JIM-NETの活動目的は、イラクの白血病治療の援助であり、具体的最終目標として、「彼ら自身の手による幹細胞移植の施行」を設定し、それに向けた専門的、段階的、系統的、持続的な支援を行うことが活動方針であることを、今回の会議で日本人スタッフのみならず、イラク人医師たちにも

周知した。

白血病治療の進歩には、強力化学療法を行えるための支持療法(感染予防、出血予防、粘膜障害予防、中心静脈栄養管理など)の充実が不可欠であるが、イラクの医療事情ではまだまだ不十分な状況である。血液バンクは十分機能せず、血小板の供給はほとんどなされず、感染予防のためのうがい、手洗いも徹底されておらず、病棟の清潔維持はされていない。ゆえにJIM-NETの現時点での活動は、支持療法の充実に注がれるべきであり、今回はその第一歩として感染症対策を強化することを提示し、イラク人医師たちに了解を得た。

なお、支援計画のうち①は前回の会議にて決定されたもので、血小板供給を安定化させ、出血死予防のものであり、感染予防と並んで白血病治療には不可欠なものである。

支援内容

- ① 成分採血装置の提供 (2台)
バスラの血液センター、セントラル病院(バグダッド)に1台ずつ。
- ② 手洗い、うがい薬、歯ブラシの提供
下記3病院で約3ヶ月まかなえる数量、アルコールゲル(手洗い用)



井下先生と俺び寂びグッズ

イラクの白血病の子ども達を救いたい。薬も検査や治療の機器もない、いへんなイラクの子ども達のためにより有効な支援をしていきたい。井下俊医師が、ヨルダンのアンマンに常駐し、イラク医療支援を進めてくれることになった。第2回アンマン会議での今後の支援についても、医師の視点から提案し、鎌田先生、松澤先生、オブザーバーの加藤先生から意見をいただきながら、当面の支援計画をまとめた。井下先生の海外医療支援の経歴は、すごい。東チモールでの難民キャンプマネジメント、アフガン緊急支援、コソボでの地域ドクター、パレスチナやイラクでの緊急支援等々。今後、JIM-NETで医療支援プログラム遂行を担ってくださる。

第2回アンマン会議終了後、すぐに会議の議事録がまとめられた。アンマンのキングフセインがんセンターに依頼し、感染症予防対策のために、イラクの3病院の看護師トレーニングの打ち合わせが始まった。日本からは、動きがとれず、時としてもどかしい支援も、隣国からできることがある。私たちが、日本から遠く離れたイラクの子ども達へと寄せる願いを、井下先生の働きが現実のものにしてくれる。

JIM-NETに関わるきっかけは、日本国際ボランティアセンターのパレスチナのジェニン難民キャンプで子ども達のためのワークショップで尺八を

吹き、子ども達の大喝采をあびたことだという。アンマンに構えたJIM-NET事務所には、くわび・さびグッズの木魚とお輪が並んだ。一日5回、井下先生のアザーン-尺八の音が響くことだろう。がんセンターの近隣にボーと先生の奏でる音が調和する日を私たちは楽しみにしている。



500本、うがい薬（1%イソジン液）1000本、歯ブラシ500本を提供する。うがい薬は、入院し化学療法を行う患者1名に付き2本、歯ブラシは1本、アルコールゲルは各病室入り口に1個設置するように条件づける。

イブンガススワン病院（バスラ）、セントラル病院、マンスール病院（バグダッド）

③ 感染予防専門看護師の育成

前記3病院で今後感染予防のチーフとなりえる看護師を対象に、手洗い、うがいなど基本的な手技の徹底のための感染予防専門看護師を育成する。アンマンのキング・フセイン・がんセンター（KHCC）で2週間程度の研修。研修後、必要薬剤、機材などの提供を行う。

④ 細菌培養検査技師の育成

前記3病院の細菌検査部門の責任者を対象に、グラム染色、細菌培養手技、感受性検査の再教育をする。KHCCで2週間程度の研修。研修後、必要機材などの提供を行う。

⑤ 抗生剤の提供

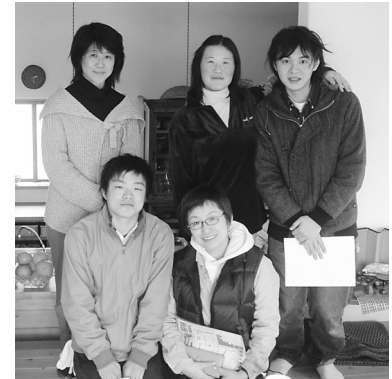
前記3病院へ、第4世代セフェム、カルバペネムなど重症感染に用いる抗生剤を提供（3〜5症例分）する。使用

時には、症例報告を義務付ける。

反省点

今回の会議では、主として感染症対策の発案をこちらから行い、計画をイラク人医師たちに持ちかける形になった。理想的には、イラク人医師たちが自らの具体的長期計画をたてる、もしくは一緒に討議しながら長期計画を練り、それに基づき支援を行うのがベターと考える。また、今回までに行った支援（顕微鏡、染色キットの提供、G-CSF、毎月の薬剤支援）の効果についての報告も十分ではなく、支援の評価が困難であった。

このため次回会議では、イラク人医師たちにより、病院ごとに今回の支援の実施状況、効果と改善点などについてプレゼンテーションしていただき、その後支援計画を討議するのがよいと考える。



私は「こー年ぐらい」「やっぱ、痛みをつなげることは大変…」と感じスライドの上映からちょっと離れていました。ただ、今回高知のお友だちが担当しているゼミの学生さんが東京にNPOの見学に来ると聴き、ならば、おもてなしの一品に?! スライドでもと思ってみて頂くことに。しかしいつも通り?! 上映まで大騒ぎ。スライドが入らない! 次に進まない! 結局、観客参加の全手動作戦。

しかし…始まるとうつくりその世界にそれぞれ思いを寄せる。その空気は静かに自分の気持ちに繋がっていった。「知る」「こととして」「伝えること」から頂くあたかさを改めて受け取った時間。その思いは確実にチエルノブイリに繋がった瞬間だった。またゆっくりでもスライドをつなげていきたいな、と思った私がいた。

吉田理映子（ナージャの風）

◎今回、原発問題を改めて深く考える機会を得た。被害者の苦しみや自然環境の長期的汚染という「ひとりの痛み」。便利で快適な生活を維持するための膨大なエネルギー需要の充足や二酸化炭素排出量削減など世間でいわれている「みんなの幸せ」。これからは、ひとりの痛みを「みんなの痛み」に「昇華」させながら、「本当のみんなの幸せ」を実現し、痛み縮めていくことが

重要ではないだろうか。一技術者として、そして一人の人間として、そのような社会の実現に向けて微力ながら貢献していきたい。

渡邊 法美

（高知工科大学フロンティア工学教室助教授）

◎自分が、チエルノブイリの事故について知っていることといえば、広範囲に放射能がもれたことや、ずっと人が住める状況にはならないということぐ

らいです。しかも、話を聞いただけで写真をみたことは一度もありませんでした。しかし、放射能が降り注いでいる中で生活していた家族や老人のスライドを見たと、なんともいえない気持ちになりました。普段の生活をしていても見えない放射能に侵され、住みなれた村を追いやられ、生きているうちに戻ってくる事ができない悲しみや苦しみを感しました。そして、こ

のような事故を二度と繰り返してほしくないという切実に思いました。

河田 光慶

（高知工科大学 社会システム工学科3年）

◎現地の人の気持ちを伝えてほしい。あのJCO事故後は、幾度となく遠くから東海村へ訪ねてきた人に、事故直後の様子を私の感じたことを話していました。あれから5年たち、久しく忘れていました。

親友Qから誘われて、私の息子と同年の青年に話す機会を与えていただきました。専門用語も忘れてしまっていて、何とも頼りのないおばさんの話を聞いてくれてありがとう! 楽しい時でした。そして、改めて東海村の厳しい現状に気づかされ、気持ちを引き締め続けていかねばならないと、心に誓いました。招かれる喜び、誘われる喜び。そんな気持ちにさせてくれた日でした。 笹田 海（ナージャの輪）

今は春、1986年4月26日のチェルノブイリ事故から19年、1999年9月30日のJCO臨界事故から5年半が経ち、4月は東海村と那珂町での年に一度のJCO事故関連健康診断実施の時です。

だから毎年春になると、草木の芽ぶきを眺めながら、命のことを思います。…忘れ得ない祈り、消そうにも消せない苦悩、忘れてはいけない伝え続けなければという使命が、今日この時に続いていることを感じます。

3月4日に茨城県那珂湊で、6日に水戸市で、双方とも年若い大学生さん達を迎えての上映と語りの会が実現しました。

明日を生きようとする若い方たちに、生きたくも許されずにしまった若い命のこと、それを苦渋のうちに見つめてきた育む眼のことを、何がしかは伝えられたと感じました。

私たちは皆、その日の暮らしを支えることに精一杯ではあるけれど、もしも少しの余力が与えられたならば、どうぞ皆様、身近な若い人たちに、スライドナージャのメインテーマ、

『ひとつの命はすべての命につながっている』

を、あなたの言葉で、思い思いに気軽に自由に伝えていただけないでしょうか。スライドは口火切りにいいですよ。(スライドの貸し出しはJCF事務局が受け付けます。)

私たちの上映会もだいぶん自然体になってきました。旧式なるスライド機の扱いには、毎回毎回ハプニングの続出で、スマートなビデオ上映とは違って否応なく人の輪を作ります。スライドのご利用をお待ちしております。

(谷田部裕子)

「携帯電話さえ持つていれば、小学生でも卑猥な投稿写真が自由に見られる時代なんだよ」。

最近、塾講師をしている知人から聞かされた言葉です。情報通信機器の普及が私たちの生活にもたらした有用性と裏腹に決して無視できない有害性があることは誰もが認めるところでしょう。とは言え、人間の情操が深刻な事態を迎えている、という危機意識はいまだに希薄であるように思われます。

高校生の時だったでしょうか、私はヒロシマ・ナガサキ・アウシュビッツ・ナンキンでかつて行われた人間による人間に対する残虐行為を記録したモノクロの写真集を買ったことがありました。書店でそれを目にしたとき、『自分はこれを見ておかなくてはいけない』という思いに駆られて購入したもの、そのおぞましさに耐えられず、すぐにその本を屋根裏部屋の段ボール箱の底に収めて封印してしまったことを今でも覚えています。

こうした「見るに堪えない」ないし「目を背けたくなる」類いの映像・画像について考察し、現代を生きる私たちに感性の覚醒を訴え続けた一人の作家が、昨年末この世を去りました。スーザン・ソントグ。アメリカに住みながら特にあの同時多発テロ以来、そのブッシュ政権への異議申し立ては辛辣さを極め、



写真提供 本橋成一



写真提供 本橋成一

体制派から「オサマ・ビン・ソントグ」と蔑称された人物です。

近代史を辿^{たど}って資料を揃え、執拗かつ冷静に戦争と写真との関係を読み解きつつ、彼女はその著述を通して目の前で起きている現実に対して誠実に応答し続けました。悲痛なまでにまなざしの臨界に立ち続け、ことばの力を信じ続けた彼女が最期に遺した論文の題名は『他者の拷問への眼差し』でした。昨年春、米兵によるイラク人収容者への侮辱を写した画像が暴露された時の文章です。

「これらの写真が明らかにしているのは、そうした行為が行われたという事実だけでなく、行為者たちの側に、写真に映っている事態のどこが間違っているのか、その自覚がまったくなかったという点だ。」

救い難い現実を凝視し続けた彼女は、私生活では服装のスタイルにこだわり、モダンダンスを熱愛する女性であったそうです。私は、彼女が晩年大江健三郎に宛てた書簡の一節を読んで、その情熱と絶望の深さに胸が痛みました。

モダーニティー（現代性）の厳しい嵐が、多くのものを吹き飛ばしています。でも消滅しないもの、それはエクスタシー（至上の高揚感）です。私たちが身体をもって生き、目、耳、舌、指、皮膚をもってしているからに他なりません。喜びは消えませんが。子供が生まれ続ける限り、依然として「自然」に近似した何ものかがある限り、文学、美術、音楽、舞踊がある限り。痛み、病、死も消えないし、人間の悪意も消えないとしても。

ジーマの

ロシア小話

◆コダック社はロシアン・マーケット向けのカメラ製品に、「赤目防止ボタン」に追加して、「赤い鼻の防止ボタン」のオプションを導入した。

◆サンクトペテルブルグの300年記念日の記者会見に、「公衆トイレの不足問題をどう解決されるつもりですか」との質問に対し、知事は「その問題はもう既に解決済みです。エルミタージュ美術館の前に低木の茂みが既に植えつけてあるからです。」

◆観光客の一行は夜遅く空港に着く。そこでガイド付のバスに乗り、町に向かう。途中で下り坂の斜面が険しくなり、バスは猛烈なスピードまで加速する。気になった観光客はガイドに、

- 運転手さんに、少しでもスピードを落とすように頼んでくれ！
- 駄目だ、そのひとを覚ますと、私が酷い目にあうんだ。



◆ある人は、スコットランドのロフネス湖の見学中、「ロフネス湖の怪物はいつ水面に現れるのか」と、ガイドに聞くと、
— 普通は5杯目の乾杯の後だ。

◆僕がある日家に帰ると、セクシーな下着姿の妻が出迎え、2本の縄を渡し、エロチックな声で、「私を締め付けてから、なんでもやり放題ですわ」と言われた。
すると、僕は彼女を締め付けてから、魚釣りに出かけた。

◆2015年のテレビ番組。アナウンサーの声：
— こんにちは。こちらは第1チャンネルのニュース番組です。全てのニュースは www.1tv.ru のサイトでみられます。ではまた明日。

——ストレリツォフ・ドミートリさんよりのアネクドート——



АНЕКДОТ



◆Новые фотоаппараты Kodak специально для России, теперь к эффекту устранения красных глаз добавлен эффект устранения красного носа.

◆У губернатора Санкт-Петербурга в канун 300-летия города спросили: как будет решаться проблема нехватки общественных туалетов?
- Мы эту проблему решили: кустики возле Эрмитажа уже посажены.

◆Туристы прилетают в аэропорт поздно ночью. Там их встречает гид, все садятся в автобус и едут в город. В каком-то месте дороги начинается спуск, и автобус разгоняется до очень высокой скорости. Туристы начинают волноваться, и кто-то говорит гиду:
- Скажите водителю, чтобы ехал потише!
- Т-с-с, нельзя: он меня убьет, если я его разбужу.

◆Турист во время экскурсии по озеру Лох-Несс спрашивает гида:
- Простите, а когда чудовище обычно появляется на поверхности?
- Обычно после пятого стакана, сэр.

◆Как-то, когда я пришел домой, меня встретила жена, одетая в сексуальное нижнее белье. Она протянула мне две веревки и сказала эротичным голосом:
- Свяжи меня и делай все, что хочешь!
Я связал ее и пошел на рыбалку.

◆2015 й год. Голос с телевизора:
- Здравствуйте! Вы смотрите новости на первом канале. Все новости на сайте www.1tv.ru Всего доброго, до завтра!



モスクワ便り

ついに、春がやってきました。3月の初旬、ロシアで注目されるのは「婦人の日」—3月8日です。「国際婦人の日」と言われているのですが、他の国ではほとんど知られていません。それは、20世紀初頭ドイツから始まり、大きな社会運動となりました。女性達は、自分の権利を擁護することにつとめました。今では誰も革命的な戦いの事など思い出さずに、女性のお祭りで仕事が休める事を喜んでいます。暖かさや太陽を欲しているのに、窓の外は雪です。私の友人達が言うように、最近の女性達は冷たくなった。だからこの日は雪になるんだと。でも、これは本当ではありませんね。世界中の女性達はとても親切で、暖かい心を持っています。3月8日の前に男性達は、お店に走り、お花とお菓子、女性達が驚くようなものを買います。テレビでは、お店の前に男性だけの列ができていて映しています。面白いのは、ハゲた若い男がヘアードライヤーを注文しています。彼の後ろにたっている大きな男は彼を見てとても驚いています。大きな男の番になると彼は、かわいいマニキュアセットを買いました。ハゲの男はそれを見て驚いています。テレビでは「3月8日は、一年でただ一度、男性が女性のものを買う日です」と言っています。おそらく、この日男性達の辛い日が始まります。だから女性達は初めは職場で（ロシアではたくさんの女性が働いています）、それから家でもお祝いしなければなりません。男性達は、家事をします。お皿を洗って、部屋をかたづけ、食事の用意をします。しかし、それは一年で一日だけです。3月9日はゆっくりし、喜んで普通の暮らしに戻っていきます。一方、専業主婦は年に一度の休日だと理解しています。

公式には男性の祝日はなく、「祖国防衛の日」（ソ連邦時代はソビエト軍の日）があります。2月23日にすべての男性—軍人・市民・老人・子ども達が祝います。学校では少女達が、少年達のために小さなプレゼントを準備し、一時間目が始まる前にそれをボーイフレンドに渡します（3月8日はお返しです）。女性達は職場で男性の仲間を祝い、家では、いつものように、夫に美味しいお料理を作ります。私の母は、男性には特別な祝日は必要ないと言います。だって、全人生がずっと祝日なのですから。おそらくそれは本当です。特に男性と共に、私たちのような素晴らしい女性が暮らしている場合は。

イリーナ・ニコラエワ (JCF モスクワ事務局)

ベラルーシの食卓

春のシンボル 「ブリヌィ」

2月に入ると「マースレニツァ（謝肉祭）」のお祭りが、厳しかったロシアに春の到来を告げます。ジェッド・マローズ（雪じいさん）やバーバ・ヤガーなど民話の主人公達が勢揃いし、子ども達は外でそり遊びに興じます。「マースレニツァ」の定番は、ブリヌィ（薄焼きパンケーキ）です。お祭り広場にも、ブリヌィを売る屋台が出て、にぎわっていました。

春のお祭りの時だけでなく、日曜日のランチにリング・挽肉・カッテージチーズを包んだり、ジャムやサワークリームをかけて、よく食べます。

<材料>

強力粉 250 g、牛乳 500 cc、ベーキングパウダー 小さじ1、レモン汁大さじ1/2、塩 小さじ1/2、砂糖 大さじ1、卵 1個、油、バター 適量、サワークリーム、キャビア、ジャムなど

<作り方>

1. ボールに卵・塩・砂糖・牛乳・強力粉を入れて、混ぜ合わせる。
2. 溶かしバター大さじ1を入れて混ぜ合わせる。
3. フライパンに油を塗り、両面きつね色に焼く。



キャビア・イクラ・チーズで前菜として食べたり、挽肉をタマネギと炒めて包んだりします。



振替用紙のメッセージから



◎少しでもごめんなさい、鎌田医師に賛同します。
(愛媛県)

◎10月に行われたチャリティーコンサートのためには用いてください。
(山梨県)

◎少しですが役立てて下さい。寒くなります、みなさまお体を大切に。
(岐阜県)

◎11月3日に「横浜くだけけ会」主催で行いました「アレクセイと泉」の上映会で募金したものです。(神奈川県)
◎応援しています、頑張ってください。
(埼玉県)

◎はじめて寄附をさせていただきました。この活動に参加の機会を与えられ、感謝します。
(東京都)

◎少額ですがお役に立てればと思います。
(千葉県)

◎イラクの子供たちが平和で安心して生活ができる環境に一日もはやくなりますよう、頑張ってください。
(茨城県)

◎グランドゼロ楽しみにしています。

少しですがお役に立てれば幸いです。

◎少しですがお役にたてれば幸いです。子ども達に夢と未来のために。
(東京都)

◎グランドゼロの記事を読みロシア人とイラク人の気質の違いを感じました。イラクの子供達が幸せな人生を歩めるように一助となればうれしい。
(茨城県)

◎いつもわずかな金額で申し訳なく思っています。コースは少ないところに使ってください。
(神奈川県)

◎グランドゼロを読むと、いつも何もしらないで自分勝手に暮らしている自分を反省します。人のことを考える人になりたいです。
(神奈川県)

◎来年こそイラクに平和が訪れますように。
(長野県)

◎「清流」読みました。応援します。
(大阪府)

◎たまたまの偶然にイラクに生まれた

り、日本に生まれたり、子どもには

選ぶことができません。大人がどう生きていったらいいのかわかっているのだと思います。今月は新潟地震義援金と半々です。よろしく願います。

(千葉県)

◎週ればその原初に広島長崎の人々に及ぼす災いの根深さを、今年も痛感させられました。
(長野県)

◎ささやかな行動を常に忸怩たる思いで見ているもう一人の自分がいます。でも何かせずにはいられないので。
(長野県)

◎「メイプル」2004年12月号鎌田先生エッセイを読んで。
(山口県)

◎木島知草さんのつばやきカレンダーの中に「グランドゼロ61秋」がありました。鎌田先生の『お願い』にほんの

少しですが送金させていただきました。グランドゼロはどうすれば読ませていただけるのでしょうか？
(茨城県)

会費、寄付をお寄せ頂くと、それから一

年間お送りいたします。(事務局)

◎鎌田先生の活動に心動かされました、また先号「グランドゼロ」を拝見し、追加支援させていただきます。
(神奈川県)

◎「2004グランドゼロころに花をピースミッション」で阿羅こんしん(大友慶次)さんと一緒にNYを訪問しました。平和を祈って2種類のピースカードを作り、帰国後、都城秋祭りで市民の人々にカードを買ってもらいました。少しですがその時のお金ですが、イラクの子供たちを助けてあげて下さい。
(宮崎県)

◎クリスマスプレゼントです。わずかですがお役立て下さい。
(千葉県)

◎小児白血病治療のためにお役立て下さい。
(東京都)

◎ささやかですが私のできることを…と思います。
(長野県)

◎非常に少額で申し訳ありませんが少しでも現地の医療に役立てて下さい。

宜しく願います。お金が出来次第また送金します。頑張ってください。

◎今回より入会させていただきました。先日はご苦勞様でした。親子の写真がタイムスと信毎両方にのりびつくりしました。またお手伝いさせていただきます。
(長野県)

◎コースはお任せします。来年は良い年となりますよう。願いを込めて。
(長野県)

◎子どもはそれぞれの国の宝です。大切にしたいです。
(茨城県)

◎今年が良い年ではありませんでした。来年は少しでも夢のみれる年にしたいなと思います。よい年をお迎え下さい。
(長野県)

◎小さな応援ですが、皆様ががんばってください！
(長野県)

◎いつもグランドゼロをありがとうございます。みんなの心に明るい灯火を。
(京都府)

◎これから一段と寒さが増しますが皆さま頑張ってください。2005年が良い年でありますように。(東京都)
◎イラクの子どものためにお役だて下さい。(茨城県)
◎ささやかですが、お役にたてて下さい。「婦人の友」の記事を読んで活動に応援の気持ちをあらわします。

(山形県)

◎危険な地帯への医療物資の配達ご苦勞様でした。イラクの人々に平和が訪れることを祈っています。(東京都)
◎JCFのみなさんへ。いつもわずかの寄附しかできない私のかわりに活動してくださりありがとうございます。

11月の鎌田先生の講演会良かったです。これからもお願いします。(長野県)
◎イラクのことを思うと同じ人間であることの悲しみで一杯です。(長野県)
◎地球上の子どもたちに希望を。来年はどうか戦争のない世界に。(長野県)
◎鎌田先生の講演会で数々のお話に

感動しました。寄附少額ですがよろしくお願いします。(長野県)
◎学べることの幸せを持ち続けたいと思います。

(岐阜県)

◎グラントゼロから悲しみが涙が伝わってきます。でも笑顔もしつかりと伝わってきます。事務局の皆様今年もお疲れさまでした。どうぞ良いお年を！(沖縄県)

◎いつもグラントゼロ有り難うございます。来年こそ平和でありますように。

(千葉県)

◎鎌田先生のお話感動しました。少額ですがコースはお任せします。

(長野県)

◎世界の惨状に心痛めています。毎年書きますが来年こそは幸せに満たされますように、祈らざるをえません。あちこち20カ所に送っているの、いくらあってもお金は足りません。心ばかり！(東京都)

◎クリスマス献金です。よろしくお願

いします。(岡山県)

◎少しでもお役にたちますように。

(岡山県)

◎六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場稼働STOP！連帯して原発STOP！(京都府)

◎無事に孫が成長していきます。同じ地球の子どもものに普通に無事に大きくなれない子ども達のためにほんとうに少しですが。(東京都)

◎クリスマス例会の時の募金です。少しでも小児白血病の治療のために。(長野県)

◎少しばかりですが、病氣の子ども達のことをいつも心配しています。

(長野県)

◎寒さ厳しくなります。少しですがお役立て下さい。(栃木県)

◎子ども達が希望・夢を持って生きられるよう願って。(茨城県)

◎鎌田先生と御縁をいただけたことに感謝しております。本当に心ばかりで

す、役立てて頂けたら幸いです。

(愛知県)

◎いつもお世話になりありがとうございます。こうして参加させていただけることに感謝しています。(愛知県)

◎子ども達健康をお祈りいたします。(新潟県)

◎日本の医療技術が役立てばうれいす。Save the Earth! (大阪府)

◎イラクの子ども達も少しでも笑顔になれますように。(茨城県)

◎非戦という希望、非核という原則を守れない日本はおかしい。命の重さは一人も百人も同様です。日本人よ、眼を目を、心眼をさませ!! (新潟県)

◎事務局の皆さん、風邪には気を付けて、事務局作業をされて下さい、ご苦勞様です。(東京都)

◎みんなが普通に生活できることを願って。(茨城県)

◎少額ですが良いお年をお過ごし下さい。そして良い年になります様に。

(京都府)

◎京都府立丹波養護学校女性有志です。母親大会の取り組みとして構成詩をする中でイラクの劣化ウラン弾による白血病の問題を知りました。子ども達を救う一助となりますように。

(京都府)

◎息子よりボーナスからほんの気持ちです。イラクでもどのコースでもお役立て下さい。(千葉県)

◎「メイプル」12月号を読んできました。かですが、募金させていただきました。

(愛知県)

◎2005年、今年こそ世界中の子供達がみんな笑顔で過ごせることを祈りたいです。チエルノブイリへの息の長い援助をこれからも続けてください。

(埼玉県)

◎クリスマスカードありがとうございます。ました。遠い国からの嬉しい便りでした。よろしくお伝え下さい。(埼玉県)

◎ベラルーシの子どもたちの夢と未来

をつなぐために今年も彼の国に心を寄せてゆきたいと思います。(長野県)

◎一日も早い世界平和の実現を願っています。(長野県)

◎自分にできることを考えています。絵はがきを送りたい時はどうしたらいいですか？(岐阜県)

事務局にお送り下されば転送します。

(事務局)

◎鎌仲ひとみ監督が「ヒバクシャ」上映会の後で鎌田先生がご助力下さり有り難いと話していました。地域医療研究会報51号で鎌田先生の文章を読み胸がジーンとし、少しだけカンパさせていただきます。

◎ヒロシマの漫画「夕風の街桜の国」を読み、初めて、被爆者の心を知り、涙が止まりませんでした。今まで怖くて見るのを避けていた映画「ヒバクシャ」を今度は見たいと思います。

(神奈川県)

◎どの国の子供たちにも日常の平凡な

～ J C F 募金のお願い～

10 ドリームズ 9 振込口座

A コース	医師の研修支援
B コース	小児白血病支援
C コース	院内学級サポート
郵便振替口座番号	00570-6-34568
加入者名	チェルノブイリ (10) ドリーム 9

10 ドリームズへの寄付はおいくらでも構いません。

応援してくださった方には、現地の病院の子どもたちからクリスマスカードが届きます。

J C F 会費振込口座

賛助会費	5,000 円
特別賛助会費	30,000 円
事務局ガンバレ会費	10,000 円
郵便振替口座番号	00560-5-43020
加入者名	日本チェルノブイリ連帯基金

* 会費・寄付の入金時には入金確認の礼状はがきを差し上げます。
はがき不要の方は振り込み用紙の通信欄でご連絡下さい。また領収書の必要な方もその旨お書き下さい。

J C F / イラク支援振込口座

感染予防のための専門看護師トレーニング費用、消毒薬の購入他

郵便振替口座番号	00520-0-81078
加入者名	J C F / イラク支援



生活が守られる日が早く訪れますようにと祈り、現場でのお働きに感謝しつつ…。
◎ わずかですが、役立てて下さい。人は良いこともするが悪いことも限りなくする存在ですね。最近の世の中を見つめながら自分自身を振り返る日々です。
◎ 信頼できるお医者さんへのつながりに感謝申し上げます。お陰さまで。
◎ 世界中で悲しいことばかり、心が痛みます。いつもご苦労さまです。もっと協力させていただきたいのですが、少なくとも細く長くをモットーにさせていただきます。
◎ 自分も教職にたずさわっています。院内の子どもたちがちゃんと勉強できるように役立て下さい。
◎ 2 人の子どもがみなさんから頂いた気持ちをベラルーシの子どもたちにおすそ分けです。

(東京都)

◎ かわいい絵のクリスマスカードが届きました。どうもありがとうございます。頑張ってください。
◎ 先日は鎌田先生の講演で、イラク支援の募金を集めたものをここに送らせて頂きます。役立てて下さいますように、よろしくお願い申し上げます。
◎ 昨年本橋さんの「アレクセイと泉」を上映した時の募金です。わずかですが…。
◎ 「婦人の友」1 月号の鎌田さんの文を拝見しました。イラクの人たちのためによろしくおねがいします。

(山口県)





ファストレチャ: 出会い

BC Tpeya



私のチェブラーシカ

昨年の「チェブラーシカのクリスマス」イベントで、上映した『チェブラーシカ』というロシアアニメーションは、チェブラーシカジャパンからお借りしました。上映に際して、レンタル料金やグッズの販売等で、大変お世話になったチェブラーシカジャパンの吉田久美子さんは、チェブラーシカを日本に連れてきた「女の子」です。上映後吉田さんからいただいた『チェブラーシカ配給日記』という本を読んだり、チェブのサイトを見て、是非吉田さんに会ってお話を聞きたくなり、3月のある日、松本から新宿行きの高速バスに乗りました。高速道路のトラブルで2時間近く新宿到着が遅れてしまい、吉田さんに遅刻お詫びの電話をすると、「大丈夫ですよ、目黒駅の改札口に迎えにきますね!」と弾んだ声、ちょっと元気になって目黒駅に向かいました。

『チェブラーシカ配給日記』には吉

田さんが結婚することに(勝手に)していた彼から、お別れの時に言われた言葉がありました。
「お前は唐辛子みたい。ないと寂しいし、刺激的だけど、毎日はいらん」
私は目黒の駅の改札口で「唐辛子、唐辛子」と刺激的なヒトを探しました。
「あー、布山さんですか?」
私の目の前にいたのは、春風が吹けばさらさらと溶けそうな、京菓子みたいな繊細な「女の子」でした。

私が是非行ってみたかった牛乳屋さんを改造したというチェブカフェは、契約切れで大家さんに追い出され、目黒にある、彼女が血と汗と涙の10000回目の合コンでひつつかんだ旦那さんの持ち物だという、スタイリッシュなご自宅兼オフィスにお邪魔しました。

さあ吉田さんのチェブラーシカ恋物語のはじまりはじまりです。

映画の仕事に関わりたと思っていた吉田さんは、丁度バブルが弾けた時期で、希望の就職先に就職できず、小さな会社でも知名度があつて、自分が歯車の一つにならないところをと吉本興業を受け合格、吉本興業が大阪梅田でやっていた、シネマワイズという映画館でプロデューサーをしていました。

シネマワイズはレイトショーだけで昼間は漫才をやっている、彼女いわく「なんちゃって映画館」だったのですが、封切り作品などは廻してもらえないこの映画館に客を呼ぶために、吉田さんはいろんな作戦を考えます。

ドリフターズ映画特集の時は、高木ブーさんにカミナリ様姿で登場してもらったり、仲本工事さんが来た時には、なぜか仲本さんが歌を歌いまくり、リサイクルショーになり、浴

衣姿の仲本さんが客席に降りると、若いお客さんが握手を求めまくるという超へんな映画館だったらしい。このシネマワイズで上映するために、小さい頃見た『雪の女王』というロシアのアニメーションを探している時、偶然にその他のロシアアニメーションの一つとして選んだサンプルが『チェブラーシカ』だったのです。そして数週間後、夜中の劇場で見た『チェブラーシカ』のプリントが彼女の運命を変えてしまふのです。

もともと「かわいい」ものが全然好きでなく、子どもも苦手、子猫も子犬もきらい、キャラクターグッズなんて全然興味がなかった吉田さんなのに、このフィルムのチェブラーシカを見て、一瞬でチェブの虜、フィルムの中に入っていくって、チェブを取り出して家を持って帰れないか、真剣に考えたそうです。もうストーリーなんかどう

でもいい、こいつがずーと動いて、しゃべっているフィルムでいいから、ずっと永遠に見ていたい。まさに《恋に落ちたヨシクミ》です。

そして、この気持ちだけが、その後吉田さんを襲う幾多の苦難を生き延びさせる力だったのです。

シネマワイズでの『チェブラーシカ』の上映は人気を呼び、吉本で海外ア





トアニメ

の買い付けをし、『チェブ

ラーシカ』を配給する企画を提出、目出度く企画開発室という部署まで作ってもらったことになり順風満帆な滑り出しだったのですが…。

ロシアはアニメーションスタジオが国営で一つしかない聞き、連絡くらいはずとれるだろうと思い、ロシア大使館に問い合わせをしますが、大使館は何百回問い合わせをしても出向いても梨の礫。(この辺のお話はJCF事務局も人ごととは思えません…)

『チェブラーシカ』の買い取りが進行しないなかで、上司の異動に伴う会社の方針転換が待ち受けていました。『君の仕事は、金にならん。取りあえず今の仕事は片付けて、次ぎはバラエティー番組を担当せよ』と申し渡され

ます。

「君の仕事は金にならん」と言われ一晩泣き明かした翌日、吉田さんは住んでいるマンションを引き払い、あまった貯金退職金有給買い上げを計算、会社を辞めて、『チェブラーシカ』を自分で買う決心をします。この計画を胸に秘め、部署替えに甘んじ吉本の仕事もこなしながら、シネマワイズが閉館した1999年頃から本格的に『チェブラーシカ』の交渉をはじめます。そしてひよんなことから、ソ連崩壊後、それまで国営だったものをドンドン売って、それを私財にするロシアの動きの中で、『チェブラーシカ』の権利もアメリカに売られていたことが判明。

2001年2月、退職1ヶ月前、有給休暇をとり、アメリカの会社からチェブの権利を買うために、ロサンジェルスに契約に行きます。そして8年間働いた吉本に辞表を出し、東京へ。



お土産のグッズを選んで下さいました。

can I get the films?』と聞くと、答えは「Money!」お金の名目は「Extra money」ロシアで、例えば150番目になっている仕事のカードを誰かに頼んで次ぎの順番にずらしてもらっためのお金…。

そして、相手から言われた1500ドルを振り込んだら、何と3日でフィルムが届いた!!

(後からロシアからフィルムを買うのに、取りに行かないなんて考えられない、よく届いたと言われたそうです。私もこの意見に大賛成、やつぱり吉田さんとチェブラーシカは赤い糸で結ばれていたのでしょうか)

波瀾万丈の末に2001年7月21日、「ユーロスペース」(東京渋谷)での初日、心配していたお客様も、長蛇の列ができ、連日満員の大人気。チェブが話題になるにつれていろんな波紋がひろがっていきます。驚くような大きな映画会社、劇場、おもちゃ会社、アパレル会社が「一緒にやりませんか?」とすりよってきたといいます。しかし吉田さんは絶対にいやだとキョヒる。チェブラーシカをキャラクターとして売る戦略は、チェブの寿命を縮めてしまうことを、8年間吉本にいた「カン」で確信していたから。

次々とくるお金の催促、手許のお金はどんどん減る、家賃は払わないといけない、そのなかで、一番お金になるこの作戦を、彼女は選ばなかった、チェブのために…。

そのために事務所を借りていた共同経営者とも袂を分かち、私生活でも彼との唐辛子の別れ、一度は大阪に帰り、

大勢のチェブラー(チェブラーシ

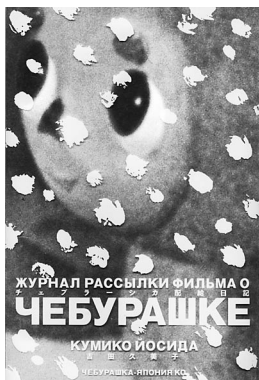
カにメロメロという伝染性の病気にかったヒト)を増やしなから、『チェブラーシカ』上映に向けて、予告編、チラシ、ポスター、ウェブ制作をすすめ、苦勞してグッズを作ります。「じゅうたん爆撃作戦」と名付けた広報宣伝作戦が功を奏し、試写会での人気が高まっています。ところがいよいよフィルムに字幕を付ける段になって大問題発生! なんと、なんと肝心のフィルムがロシアから届かない。アメリカの権利元に、大学以来使っていないさび付いた英語で「How



DVD『チェブラーシカ』

全部やめてしまおうかと思うのですが、『今チェブの手を離すなんてムチャクチャだ、自分自身を立て直すためにもチェブの力が必要だ、女31才、男ナシ、借金アリ、チェブ付き。よし、行くぞ!!』とリベンジ東京を決意。

東京に戻り、「グリコ牛乳」の看板のかかった古い店舗を格安で借り、「チェブカフェ」という、事務所とチェブグッズを売るお店を作り、ここから『チェブラーシカ』を発信していきます。ところが、手作りのカフェでやるとチェブとの蜜月が始まるかという時に、とんでもないことが起きるのです、チェブラーシカ争奪戦争!



自費出版の『チェブラーシカ配給日記』



ロシアのスタ
ジオのシナリオ
ライターが日本で
チェブがヒットし
ていることを聞いて、一回アメリカに売ってしまった『チェブラーシカ』の権利を、「やっぱり契約は無効です。返して！」と訴えてきたのです。ロシア側についているややこしい日本の広告代理店みたいなまでからみ、ついに吉田さんは「ヒコク」になってしまふ。

そんな中でチェブの新作を作りませんか？という話も来たといひます。吉田さんがあまりにもきつぱり「いやです！」というので、勝手にロシアのスタジオと話をする会社が出たり、話を断りにくい共同出資者に圧力をかけてくる会社も出る。

でも吉田さんはこう言うのです。

チェブラーシカの魅力はやっぱり

あります。チェブラーシカ／メリーポピンズ案。東風にのつてなぜか日本にやってきたチェブ。でもいつか、ロシアに帰ってしまう日がやってくるかもしれない。東の風が西にかわつたら、帰ってしまうかもしれません。その時がきてもチェブに「日本に来てくれてありがと」と言えるようにしよう。そしてチェブにも「来てよかった」と思ってもらえるようにしよう。チェブにいろんな経験をさせてもらいました。めっちゃめちゃ楽しかった。でもいつかチェブと別れる時は、必ず凜とした姿で、メリーポピンズみたいにきりりと帰ってほしい。決して、日本のキャラクター市場にもみくちやにされて、ぼろぼろになってからだをひきずって帰らせたくはないのです。

私達が上映会で出会うチェブが、ちよつともやがかって、どこか懐かしくてあどけなくて魂をわしづかみに

原作よりも、絵よりも、あの表情であり動きであり、声であると私は思っています。誰かが演出したというようなものじゃなく、あれは生きているものの動きだと思つてゐる。原作者のキャラクターノフはチェブを演出したのではなく、チェブが見えていたんだと思う。だから力キャラクターが亡くなつてしまった今、新作はあり得ない。物を買つてもらふためにサービス過剰になつてゐる時代だからこそ、買う人に合わせるのではなく、好きになつたチェブに対して「努力」して欲しい。好きな人のために努力するみたいに。好きな人のために遠くまで行つたり、食べたいものを我慢してダイエツトしたり、時には悲しくて泣いたり。そんな気持ちでチェブにも持つて欲しい。チェブのために寒いなかを遠くまで小さな映画館を訪ねたり、そしてもう絶対に作れないものにしかない、良さや切なさを大切に思つて欲しい。チェブの3話目の

する「魔力」をもつてゐるのは、こんなふうなチェブをとことん愛して守つた吉田さんがいたからです。もしどこかと組んでキャラクター化してゐたら、私たちはこんな気持ちでチェブを見るのができなかつたでしょう。

現在吉田さんはチェブラーシカジャンの傍ら、ソニーのウェブサイトをSonyの契約業者として映画の買い付けを担当しています。

最近の映画があまりにもめまぐるしく変わるの、もつと一本一作品を大事にできないだろうか、私達が、いいと思う作品を足でかせいでみつけてきて、まずは劇場でヒットさせて、ネット発信してDVDにもしていく。ソニーが将来的にネットもできるテレビを開発しているの、そういうテレビが普及すれば、普通のテレビを見るように配信された映画を見られる

最後の歌は、本当にあれでおいしまいだからこそ、切なくて泣きそうになると思ふ。

怒鳴り込んだり、裏切られたり、がっかりしたり、そんなことは十分しました。そんないろいろなことがすべて「吉本興業でやつていたら、こんなことにはならなかつた」とも思ひます。今も弁護士さんみいるし、日本に代理人さんみいます。でも最終的には一人なんだと思ふ。ヤツを本当に守れるのは私一人だと。なんでもかつて言う、死ぬほどかわいがつてゐるから。

今争つてゐる、ロシア側のチェブ権利元を名乗つてゐる人に言われました。「僕は君みたいにチェブラーシカを好きじゃないよ」と。嘘でもいいから、私から取りあげようとするなら、好きだと言つてくれよ。超切ないよ。

いろいろチェブに関してうさんくさい情報が出てきた時、思つたことが

ようになリます。ヨーロッパにも良いアニメーションはいっぱいあるけど、でもいっぱい日本に入つて来すぎて、飽和状態になつてます。だからヒットさせるためには、付加価値をつけることが必要です。たとえば、おもちゃやテレビがあふれてゐる子ども達にはなく、楽しみが少ない子供達に見せる



慈恵医大小児科病棟プレイルームでの上映会



ことに
よって、
その喜
びが大
きな口

コミとなるような付加価値。ちょうど
So-netにはM3という医師だけが入
れるチャットルームがあり、外部から
はヒヤリングといってメールだけ送れ
るので、早速そのM3を通し、全国の
お医者さんに「こういう上映会どうで
すか？」とメール出しました。すると、

なんとほとんどの小児科の先生から返
信が来たのです。どのお医者さんも子
供達に少しでも楽しい時間を与えたい
と思っていることがわかって、びっく
りしました。そして「是非入院患者さ
んに上映会をしてください」という病
院が沢山ありました。

でも、良く考えると、このただの映
画上映ボランティアをどうやってビジ
ネスに変えていくことが出来るのだら

う？例えば、DVDに「全国の病院で
子供達に見せている作品です！」と書
くことによって、マスコミに取り上げ
てもらいやすくなり、お母さんが安心
して買ってもらえる作品になる、そし
たらヒットするかもしれない。でも：
それっていいのだろうか？病院、患者
さんには迷惑はかからないの？
そういうことも、お医者さんに聞い
てみました。

「とにかく一日中寝ている子供達には、
楽しみが少ない。ボランティアじゃな
く、それがビジネスになれば、もっと
病院で映画が見れて、音楽が聴けて、
病院にいる方が楽しいって、なってる
いいんです。」

小児科に入院している子供達に、
ちょっとした非日常な時間をプレゼ
ントできたら、それは素敵な事。沢山
のお医者様たちと相談しつつ、『チェ
ブラーシカ』はじめ、心温まる作品を
リュックにしまって、プロジェクター

んたちにもあまり迷惑かけないので、
私一人でも気楽に行かれるのです。

昨年JCFも松本の市民団体や学生
さんといっしょに、信州大学医学部小
児科プレイルームで、入院している子
どもさんに、豆まきイベントのプレゼ
ントをしました。入院している子ども
さんは勿論ですが、付き添いのお母さ
んもとっても喜んで下さったことを思
い出します。その時も協力して下さっ
た看護師さんが、こういうイベントが
あると、みんなとっても楽しみに待っ
ているとおっしゃっていました。

チェブが病院の子どものところを訪
ねていると思うと、想像するだけで、
胸が暖かくなります。

さいごに、これからの吉田さんの夢
をお聞きました。

「チェブラーシカの名前で次の映画
を配給する事です。順調にいけば、来

年かないそうです！」
どこまでも映画とチェブちゃんと
いっしょが、吉田さんの夢なのでした。
夢がかないますように。

高速のトラブルのために本当に短い
時間でしたが、いっしょにお話聞いて
るだけで、チェブの映画の中に迷い込
んだような、そんな時間でした。吉田
さん、今度は松本に遊びに来て下さい。
温泉と日本蕎麦用意して待つてまー
す！



チェブラーシカジャパン
http://www.cheb.tv/
コトコトホスピタル
http://www.so-net.ne.jp/cotocoto/hospital/index.html

(事務局・布山)

(記事には、吉田さんのお許しを得て、『チェ
ブラーシカ配給日記』から、沢山の引用を
させて頂きました)



慈恵医大小児科病棟プレイルームにて

持って、月二回くらい、いろんな病院
を回っています。元気な子と違って、
すぐその時に反応は少ないけれど、後
からとっても楽しみにしていると聞く
と励みになります。チェブちゃん、可
愛いじゃないですか、だから子どもよ
り、付き添いのお母さんがきやーと喜
んだりするんですよ。映画だけではな
にかなと思って、「ムービーメーカー
ズスクール東京映像」の先生や学生さ
んと、ワークショップもやったのです
が、準備も大変ですし、病状によって
参加できない子どももいたりします。
その点、映画は簡単にでき、看護師さ



よろずそこつどうほんぼ 萬粗忽堂本舗

店主 村石 保

その九

カール・マルクスは、かく語りき

長野県山口村（現岐阜県中津川市）の合併問題が、累日、報道喧伝されていたのは、本誌62号（二〇〇四年十二月）発刊前後のことと記憶している。それからわずか四か月後（二〇〇五年三月）、現在それを口にする者は、ただのいちにんもない。あたかもわが事のように、おらが藤村を錦の御旗とし、合併がドーシタ、地方文化のキ

キだと、したたかに自説を開陳されていた人々は、まさに、汐が引くごとく県議会からもマスコミからも、そして人々の口からも潰えてしまった……。

あの鼎の沸くが如し日々は、いったい何であつたのだろうか。これこそ普遍本質に言及できなかった、日本流シャンシャン顛末そのものである。

翻つて、昨今の株式会社日本が、まことにもって喧しい。ライブドアによるニッポン放送（フジテレビジョン）買収問題、西武鉄道グループの総帥堤義明の失墜、ソニー井出会長の退任劇……。何れ劣らぬ株式会社日本の屋台骨を支えていると、自他共に認めているであろうはずのお歴々である。

とりわけライブドア社長堀江貴文氏は、プロ野球新規参入の画策を機に、一躍平成の寵児に躍り出た御仁である。彼の講演なら、数万円を投じてでもありがたく拝聴する人々もいるというから、今や教祖的存在である。

こういった新参者が持て囃されると、とかく忌み嫌うのが、この国の習わしである。東大卒の金持ちが嫌味なのか、あのTシャツ同様にセンスを疑う物言いがお氣に

召さないのか、私の知る由もない。ある国会議員曰く「法律を犯さなければ何をしてもいいのか」曰く「資本主義にもルールがある」。片腹痛いとはかくのごとき戯れ言。元より堀江氏に荷担はするつもりなど毫もないのだが、少なくとも、件の国会議員たちに利いた風な倫理観を説いていただくのは、堀江氏ならずとも不本意であろう。と、書いている最中に、自民党衆議院議員中西一善が強制わいせつの現行犯で逮捕された。中西のキャッチフレーズが自分の名前にこじつけた「一日一善」というから笑うしかない。言わずもがな、倫理以前の話である。

一連の騒動をよそに、愛知県では、新空港セントレアに始まり、市民の憩いの森に観覧車まで造って「自然の叡智」を銘打った「愛・地球博」というTOYOTA博が賑々しくも開かれようとしている。もはや向かうところ敵なし、独り勝ちTOYOTA車の独走である。

株の買い占めによる会社の乗っ取りも、そこに民主的でフェアな倫理を求める政治家も、欲しいがままにこの世の一木一草に至るまでわたくし化しようとした齢七〇の堤義明のさもしい生き方も、自然との共生を謳う博覧

会も、所詮は喰うか喰われるか、潰すか潰されるかといった慎みなき資本主義という大瓶の中のできごとである。そこに民主的な倫理を求めること事態、ナンセンスである。そこにフェアなビジネスなど存在するはずがない。彼らのしてきたこと、これからしようと企てていることは、新旧の違いこそあれ、体の良い銭儲けの方便にすぎない。

こういった身も蓋もない資本主義の末世を予測したかのごとく、カール・マルクスの『資本論 第一巻』（筑摩書房）が、今村仁司・三島憲一・鈴木直による新訳版で、この二十一世紀に甦ったことは、もはや事件であり、ミステリアスですらある。これは、はたして歴史的必然であろうか。

——商品はさしあたり人間の外部にある対象である。すなわちその属性によって何らかの人間の欲望をみたすものである。欲望がたとえば胃の腑から出てこようと幻想から出てこようと、この欲望はそれによっていささかもその本性を変えることはない。（第一篇 商品と貨幣）

カール・マルクスは、かくのごとく語りき。

チェチェンで何が起こっているのか

さる2月12日に東京ウイメンズプラザ（東京・渋谷区）で、「チェチェンで何が起こっているのか―最新現地情報と難民支援報告」（主催・市民平和基金／チェチェンニュース編集室／チェチェンの子どもを支援する会）が開かれた。

最初に、アゼルバイジャン共和国でチェチェン難民の支援をしている「チェチェンの子どもを支援する会」代表の鍋元トミヨさんが、チェチェン難民の自主運営の学校への支援、女子生徒たちの技術習得のための刺繍教室、男子生徒のためのサッカークラブなどへの支援の状況をビデオを交えながら報告。チェチェン難民は仕事につくことが難しく、最近の物価高騰も加

況で、120人ほどが参加し、熱心に報告に聞き入っていた。1994年のロシア軍の侵攻以来、独立派とロシア軍の戦闘が続いている。チェチェンというと、すぐに「テロリスト」とイメージしがちであるが、チェチェンで何が起こっているのかという事実を知ること、そして伝えていくことが必要だと強く感じた。

（風樹 光）

＜ウェブサイト＞

チェチェン総合情報
<http://chechennews.org/>
 チェチェンウォッチ（Chechen Watch）
<http://groups.msn.com/ChechenWatch>
 チェチェンの子どもを支援する会
<http://www7.plala.or.jp/deti-chechni/>

Book

ロシア軍の圧倒的戦力による掃討作戦にさらされ、国際社会からは「反テロ戦争」の名の下に、被害を黙殺されてきた抵抗の民たち。廃墟となった街を何度も訪れ、4世紀に涉ってロシアと戦い続けてきた人びととの触れ合いから、独立を目指す不屈の精神、敵兵をも助ける共同体のやさしさを伝え、彼らの素顔に迫る。

「チェチェン 屈せざる人びと」
 著者：林 克明
 発行：岩波書店
 定価：1890 円（税込）

チェチェン 屈せざる人びと 林 克明



Book

カスピ海と黒海に挟まれた広さ岩手県ほどのチェチェン共和国。大国ロシアはなぜここに侵攻し、チェチェン民族の抵抗はなぜ続くのか。厳戒のチェチェン潜入ルポとウォッチャーの考察による、チェチェン問題理解のための入門書。

「チェチェンで何が起こっているのか」
 著者：林 克明、大富 亮
 発行：高文研
 定価：1890 円（税込）

チェチェンで何が起こっているのか 林 克明、大富 亮

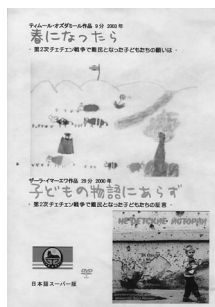


DVD

チェチェンとアゼルバイジャンで制作されたアニメーションとドキュメンタリー・ビデオ。第2次チェチェン戦争で難民となった子どもたちが自らが体験した爆撃、肉親の死、兵士の略奪、辛い逃避行を証言する。現代の植民地戦争の全てを見た子どもたちは、今、何を考え、何を夢みるのか？

「春になったら／子どもの物語にあらず」
 オリジナル版制作：スタジオ
 「ハン・アーナ・ナフ（時代・空間・人間）」
 日本語スーパー版制作：東京シネマ新社
 発売元：通販あれこれ
 TEL 03-5312-7751 FAX 03-3350-3571
 定価：3500 円（税込）

春になったら／子どもの物語にあらず スタジオ「ハン・アーナ・ナフ」



ビキニ水爆実験被曝から 51 年

第五福竜丸元乗組員大石又七さん講演



1954年3月1日に、マーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験「ブラボー」から今年で51年。当時マーシャル諸島の近海で操業中だったマグロ漁船「第五福竜丸」が被曝した。

今年2月、東京都内で行われた「ビキニ事件51周年集会」で第五福竜丸元乗組員の大石又七さんがお話をされた。その要約を紹介する。

(風樹 光)

現在、私は東京都内でクリーニング店を営んでいます。小中学校からの依頼で、生徒さんたちにビキニ事件についてのお話をしています。昨年はビキニ事件50周年ということもあって、マスコミにも取り上げられ、70回くらい講演をしました。先生も生徒もビキニ事件のことはほとんど何も知りませんけれども、生徒さんたちは本当に真剣に聞いてくれて、感想文を送ってくれます。

現在までに第五福竜丸の元乗組員の半数が亡くなり、ビキニ事件のことをもっと多くの人たちに知ってもらいたいということ、一昨年、『ビキニ事件の真実』という本を出版しました。本当のことを知ってもらおうと思い、当時の資料に基づいて書きましたが、ビキニ事件が政治的に抹殺されたことがはつきりとわかってきました。日本政府とアメリカ政府との間で、わずかな見舞金と原子力技術の供与という

政治決着で、事件は抹殺されてしまいました。私たちがヒバクシャとして国から認められないのが本当に悔しいです。

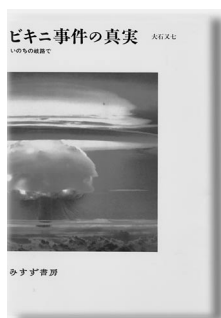
ビキニ事件は決して過去の終わったことではなく、現在の日本の状況にもつながっています。朝鮮やイラクの問題にもつながっていることなので、ビキニ事件を知ることが現在を知ることになると思います。

数年前、水爆実験が行われたマーシャル諸島を訪問しました。マーシャルのヒバクシャたちは、アメリカ政府から高額の補償金をもらっているけれども、実験場となった島から移住させられ、現在も放射能汚染がひどくて、故郷の島に帰れないでいます。ビキニ島民が移住させられているキリ島では、アメリカからの補償で、島民はいくつもの生活をしていて、島には立派な施設がいくつもあり、狭い島なのに車が走り回っています。でもキリ島は離れ小

島で、海が深くて魚も獲れないし、ヤシの木も少なく、生活の糧はすべてアメリカから買っています。何千年前から先祖から受け継いできた伝統や自給自足の生活様式が、これからの子孫のために残せません。将来、故郷の島に帰ることになったときに、この人たちはどうなるのだろうと思いました。ビキニ島民の老人の言ったことが非常に印象に残りました。

「この島はこんなに裕福に見えるけれども監獄の島なんだ」

今、世の中がとても危険な方向にむかっています。こういう時こそ、戦争を体験して知っている人たちが、私のようなヒバクシャの人たち、本当のことを知っている人たちが、何も知らない人たちに知らせる、ということが、いま一番大事なことではないかと思っています。



ビキニ事件の真実

著者：大石又七
発行：みすず書房
定価：2730 円（税込）

ニュースクリップ

< 国 内 >

●腐食と浸食繰返し配管破損

関西電力美浜原発死傷事故で破損した配管の調査結果が経済産業省の事故調査委員会に報告された。配管減肉の原因は、水と鉄の化学反応による腐食と水流による浸食を繰返しながら配管内壁が削られる「エロージョン・コロージョン」だったことが裏付けられた。(12月13日 毎日新聞)

●福島第一原発全6基運転停止

東京電力は、福島第一原発6号機で水漏れがあり運転を停止して調査すると発表した。第一原発では1号機が同社のトラブル隠しにより運転停止したままで、他の4基も水漏れトラブルや定期検査などで止まっており、全基が停止することになる。(12月17日 毎日新聞)

●北極の氷河から「死の灰」計測

広島、長崎に投下された原爆やビキニ水爆実験がもたらした核時代の「死の灰」が、北極の氷河から検出された。工藤章・京都大名誉教授の研究チームが、1945年以降の積雪でできた氷塊から核分裂で生じる放射性元素を計測し年代別に分析した。大気圏核実験は80年までに計510回あまり繰り返されたが、いずれも地球規模でおびただしい放射性降下物をまき散らす「きたない爆弾」だったことが裏付けられた。(12月20日 朝日新聞)

●再処理工場ウラン試験を開始

日本原燃は、使用済み核燃料再処理工場で劣化ウランを使った試験運転(ウラン試験)を開始した。工場の各建屋に設置した機器の性能確認や不具合の発見が目的で、初めて放射性物質を使う。試験期間は1年間で、終了後は使用済み燃料を実際に使う総合試験に移行し、06年7月の操業を目指す。(12月21日 時事通信)

●浜岡原発5号機が稼働

試運転中だった中部電力の浜岡原発5号機が、国の最終検査を終え営業運転を開始した。出力は138万キロワットで、現時点では日本最大。商業炉としては53基目。(1月18日 共同通信)

●東通原発1号機が臨界

東北電力は、東通原発1号機が、核分裂の連鎖反応が維持される「臨界」に達したと発表した。3

月には発電を始め、出力を段階的に上げながら試験を行い、10月には営業運転を始める。(1月24日 東奥日報)

●浜岡原発、耐震工事実施へ

中部電力は、東海地震の想定震源域にある浜岡原発の耐震性を向上させる工事を実施すると発表した。同原発は地震の強さを示す加速度で600ガルまで耐えられるよう設計されているが、同1000ガルまで引き上げ、東海地震の2～3倍の揺れの強さにも耐えられるようにするという。(1月28日 毎日新聞)

●再処理工場で設計ミス

日本原燃は、国の原子力安全・保安院の指示で調査した結果、使用済み核燃料再処理工場で建設中の高レベル放射性廃棄物ガラス固化体貯蔵建屋など4建屋で、冷却装置に設計ミスがあり、改造工事をするを発表した。(1月28日 共同通信)

●福井県知事、もんじゅ改造を了解

西川・福井県知事は、中山・文部科学相と県庁で会談し、1995年12月のナトリウム漏れ事故以来、停止したままの高速増殖炉原型炉もんじゅについて、運転再開の前提となる改造工事の実施を了解すると伝えた。(2月6日 共同通信)

●水爆実験被曝異常の疑い伝えず

1954年3月1日、太平洋のビキニ環礁で行われた米国の水爆実験の後、「死の灰」を浴びた日本のマグロ漁船「第五福竜丸」乗組員の生殖機能が一時的に低下し、放射能との関連が強く疑われるとの情報を日米両国の関係機関が共有しながら「機密扱い」とし、患者の乗組員にも知らせていなかったことが、米公文書や当事者の証言から明らかになった。(2月28日 共同通信)

●保安院「再発防止策は不十分」

美浜原発3号機死傷事故に関して関西電力が経済産業省に提出した事故報告書について、原子力安全・保安院は、「再発防止への具体的な行動計画がなく、不十分だ」とする評価結果を同省の事故調査委員会に提出した。(3月3日 共同通信)

●原子力白書「信頼回復が課題」

原子力委員会は、関西電力美浜原発死傷事故や東京電力原発トラブル隠しなど原子力関連の事故やトラブルで国民の信頼は失墜し、信頼の回復が大きな課題だとした2004年度版の原子力白書を閣議に報告した。(3月4日 共同通信)

< 海 外 >

●英核燃会社、核物質30年間放置

英国核燃料会社が運営する原子力施設の屋外貯蔵プールで使用済み核燃料を覆う合金が腐食、内部のウランやプルトニウムが一部溶け出したまま約30年間放置されていることが、欧州連合高官の証言で分かった。(12月11日 毎日新聞)

●津波でインド原発が緊急停止

スマトラ沖大地震でベンガル湾に面したインド南部カルパカムにある原発が津波に襲われ、原子炉が緊急停止するなどの影響を受けた。政府当局は「放射能漏れや深刻な被害はなかった」としているが、周辺住民に不安を与えている。カルパカムは重水炉2基と実験炉1基、再処理工場を持つ複合施設。(1月9日 毎日新聞)

●津波で高速増殖炉の工事中断

インド洋津波で、インド南部カルパカムに整備中の高速増殖炉の建設現場に大量の海水が流れ込み、工事中断に追い込まれていることが分かった。チェンナイの民間組織「核兵器反対運動」によると、高速増殖炉は平均海拔約5メートルにできる計画で、それを超える津波が襲ってきた場合、施設が破壊される危険性があると指摘、建設の中止を求めている。(1月12日 毎日新聞)

●米、先制核攻撃の選択肢温存

ブッシュ米政権は、「ならず者国家」やテロ組織などへの先制核攻撃の選択肢を温存するため、核保有国による非核国への核不使用(消極的安全保障)を国際条約とすることを拒否する方針を決定し、5月の核拡散防止条約(NPT)再検討会議に臨むことが分かった。(2月2日 共同通信)

●米、新型核兵器の研究予算請求

米政府は、地下深くへの攻撃を想定した特殊貫

通弾(バンカーバスター)用の新型核兵器「強力地中貫通型核」や、現在ある核兵器の破壊力強化、軽量化を図るための研究予算を盛り込んだ2006会計年度の核兵器関連予算案を議会に送付した。「使える核」を追求するブッシュ政権の姿勢が鮮明となった。(2月8日 共同通信)

●北朝鮮、「核兵器製造」言明

北朝鮮外務省は声明を発表し、「われわれは、ブッシュ米政権の増大する対朝鮮孤立圧殺政策に対抗して、自衛のための核兵器を製造した」として、初めて直接的な表現で核保有に言及した。(2月10日 時事通信)

●国際社会に核拡散の危機

国連のアナン事務総長は、安全保障会議で演説し、国際社会は核拡散の危機に直面しており、「新たな対応を取らなければ、非常に近い将来、核兵器保有国の増加を招くことになる」と警告した。(2月13日 共同通信)

●IAEA、議長総括を採択

国際原子力機関(IAEA)の理事会は、北朝鮮に対し、核開発廃棄と6カ国協議に復帰するよう求める議長総括を全会一致で採択した。また、イランに一層の協力を求める議長要約もとりまとめた。議長総括では、北朝鮮が02年12月に査察官を追放して以来、IAEAの査察に応じていないことに懸念を表明した。(3月3日 毎日新聞)

●中央アジア非核条約調印へ

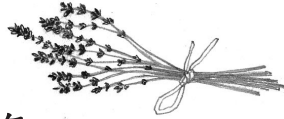
キルギスのクシュチュベコフ第一外務次官は、同国など旧ソ連を構成していた中央アジア5カ国が非核地帯条約締結で最終合意し、今年9月の国連総会までに参加各国の首脳により調印されるとの見通しを明らかにした。調印式は旧ソ連最大の核実験場だったカザフスタンのセミパラチンスクで行われる予定。(3月4日 共同通信)

こんにちは！

Здравствуйте!

2005 年度 J C F + 松本中央公民館 共催

「ヒロシマ・ナガサキ被爆 60 周年、 そしてチェルノブイリ 20 周年に向けて」



2005 年、日本は終戦 60 周年を迎えました。しかし今なお戦禍に苦しむ人たちがこの地球上にいます。いったん戦禍の渦中に巻き込まれてしまうと、一番被害を受け黙って命を失っていくのは市井の人々です。

戦後 60 周年の本年、二度と戦争を起こさないように、戦争に加担することのない世界を創っていくために、私たちに何ができるかをみんなで考えていきましょう。

3 月 17 日、松本中央公民館において市民有志が集まって、第一回の企画会が開かれ、写真展、上映会、講演会、学習会等の案が出されました。今後も毎月企画運営会を開いていきます。みなさんからの企画のアイデア提案をお待ちしています。

～運営ボランティア募集中です～

4 月のイベント予定

4 月 22 日（金）～4 月 28 日（木） M ウイング 2 F ギャラリー

チェルノブイリ MEMORIAL DAY 19th.

- ・本橋成一写真展「無限抱擁」
- ・J C F 活動紹介展示
- ・J C F 関連ビデオ・DVD 上映

4 月 23 日（土）10:00 M ウイング（松本中央公民館）4 F 調理室

- ・ベラルーシの食卓（参加材料費 500 円）

マチャンカを作ろう！



参加問い合わせ：J C F 事務局
電話：0263-46-4218



J C F のイベントで司会を務めるガニさんとサーシャさん

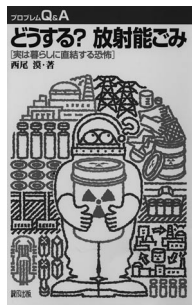
サーシャ、ガニ 旅立ちの春

日本ユーラシア協会の新年会で偶然、隣りにすわったガニさん。まだ、少年の面影が残っていましたね。はや、3 年。J C F の事務所では、2 人になってしまったけれど、ガニ先生の丁寧な指導は変わりませんでした。マスコミには載らない日本の最新情報をロシア語で読むのはとてもスリリングでした。ある時、ガニさんがベラルーシから研究生が信州大学に来ています、と言って、サーシャを連れてきてくれました。サーシャは金属工学が専門で、いくつも論文を書いている優秀な研究者です。長野市の工学部に移ってから、毎週土曜日は合気道の稽古に松本に来ていました。1 年前、念願の初段を取りました。「初段から袴を付けるんだ」と喜ぶサーシャにガニが一言。「サーシャが袴をはいたら、ミニスカートだね」。身長 192 センチのサーシャです。2 年間の研修を終えて、帰国する前に、とうとう、二段をとりました。ベラルーシで合気道の道場を開けます。ガニは一橋大学大学院に進みます。楽しい二人が松本から飛び立っていくのは、とても寂しいです。でも、知ってるかな。J C F に関わると、離れようにも離れられない不思議な繋がりができてしまうってことを。ベラルーシで、東京で、もっと大きくなった二人にお世話になることでしょう。

（事務局・神谷）

どうする？ 放射能ごみ

西尾 漢



「どうする？ 放射能ごみ」
著者：西尾 漢
発行：緑風出版
定価：1680 円（税込）

原発から排出される放射能ごみⅡ放射性廃棄物の処理は、あまりに危険で管理は半永久的だから大変だ。再処理や原発の廃炉は新たな放射能ごみを発生させ、ごみが雪だるま式に増え続ける。トイレのないマンションといわれた原発のツケがいま廻ってきているのだ。子孫にツケを残さないようにするにはどうしたらいいのか？

Book

高校生のための原発の基礎知識

関根一昭、平和・国際教育研究会



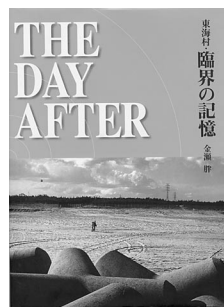
「これだけは知っておきたい 高校生のための原発の基礎知識」
編者：平和・国際教育研究会
著者：関根一昭
発行：平和文化
定価：630 円（税込）

本書は、高校生、若者のためにまとめた原発の入門書。核分裂反応や放射性物質、原発のしくみなどについての基礎的な理解の上に、原発をめぐる世界の動向、チェルノブイリなどの原発事故、放射性廃棄物問題、住民の反対運動、原子力エネルギーからの脱却などについて考える。

Book

THE DAY AFTER 東海村・臨界の記憶

金瀬 胖



「THE DAY AFTER 東海村・臨界の記憶」
著者：金瀬 胖（かなせ ゆたか）
発行：冬青社
定価：2650 円（税込）

核の事故はその時感じることができない。知らされた時にはもうダメージを受けたあと。THE DAY AFTER。村は原子炉そのもの。道はその配管。海は炉を冷やし空は希ガスの廃棄場。汚染や事故、被曝の憂いの雲は晴れることがない。

Book

夕風の街 桜の国

こうの史代



「夕風の街 桜の国」
著者：こうの史代
発行：双葉社
定価：840 円（税込）

昭和30年、灼熱の閃光が放たれた時から10年。ヒロシマを舞台に、一人の女性の小さな魂が大きく揺れる。最も脆弱き者たちにとって、戦争とは何だったのか、原爆とは何だったのか。今年はヒロシマ・ナガサキの被爆から60年。今こそ読んでおきたい作品。

Book

原爆被災地跡に平和を学ぶ

長崎文献社



長崎游学マップ 1
「原爆被災地跡に平和を学ぶ」
編：長崎文献社
発行：長崎文献社
定価：840 円（税込）

今までにない、長崎まちあるきのためのマニユアル第1巻。長崎にある原爆被災遺構やモニュメントを網羅した、これからの「平和学習」「平和学」の参考書としてもおすすめの本。詳細マップ入り。永井隆博士と如己堂の詳細記録と業績、浦上天主堂とカトリック信者の受難の歴史も紹介。

Book

核問題ハンドブック

和田長久、原水爆禁止日本国民会議



「核問題ハンドブック」
編者：和田長久、原水爆禁止日本国民会議
発行：七つ森書館
定価：2100 円（税込）

1945年8月、広島・長崎に原子爆弾が投下されて60年。核被害の実態を伝え、核兵器、核軍縮、原子力発電問題を考える必携のハンドブック。「核と戦争のない未来」を見つめる133項目。索引付。

Book



第 63 号

発行日 2005 年 3 月 26 日

発行人 鎌田實

発行所

日本チェルノブイリ連帯基金

イラスト題字 貝原浩
イラスト 武内裕子

表紙デザイン 重岡朱
酒井隆志

スタッフ 神谷さだ子
布山みな子

協力 風樹 光
大野由美子
重岡 朱

印刷 佐内裕之
電算印刷

■編集後記

煤けてきた事務局の壁の一部を、珪藻土（古の植物プランクトンが海底や湖底に蓄積されてできた土）で塗り替えた。珪藻土は小さな粒子の中に無数の空気層があり、調湿性や断熱・遮音・脱臭性に効果を発揮するという。ペンキと違って臭いも無く塗りむらがかえって独特の味になり、初めての壁塗りは楽しかった。太古の時代が流れこんで明るくなった事務所の中にはヒロシマ・ナガサキ 60 年、チェルノブイリ事故から 19 年という「今」が横たわっていた。（布山）

■事務局日誌■

< 12 月 >

20 日 「グランドゼロ」62 号発送作業
21 日 ヨルダン渡航打ち合わせ（諏訪中央病院）
22 日 JIM-NET 会議（JCF 事務局）
24 日 医療ミーティング（信州大学医学部）
27、28 日 事務局大掃除

< 1 月 >

12 日 松本市社会教育審議会（松本市役所）
20 日 JIM-NET 連絡会（東京・JVC 事務所）
24、25 日 医師招聘研修打ち合わせ（徳島日赤病院）
27 日 アルプスフロント懇話会（松本中央公民館）
29 日 第 78 次訪問団出発

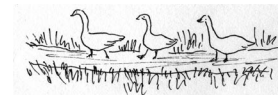
< 2 月 >

5 日 「コープ長野虹のフェスタ in まつもと」講演（松本大学）
8 日 第 78 次訪問団帰着
ヨルダン・アンマン第 3 次訪問団出発
18 日 ヨルダン・アンマン第 3 次訪問団帰着
24 日 アルプスフロント懇話会（松本中央公民館）

< 3 月 >

1 日 ゴメリ州立病院招聘医師来日出迎え（関空、徳島日赤病院）
10 日 会員さん訪問取材（東京都内）
12 日 第 79 次訪問団出発
17 日 2005 年度連続講座企画会（松本中央公民館）
20 日 第 79 次訪問団帰着
24 日 アルプスフロント懇話会（松本・駅前会館）

2005 年 JCF スタディツアー



ジャガイモや麦の収穫が終わり、静かでゆったりと時間が流れているベラルーシ。JCF が支援してきた病院の仲間や子ども達とゆっくりと交流するツアーです。滞在企画もみんなで作っていきましょう。

日 程 : 8 月 27 日～9 月 4 日（9 日間）

訪問先 : ベラルーシ共和国ゴメリ州

参加費 : 約 23 万円（朝食 7 回、昼食 7 回、夕食 7 回）
（最小催行人数 7 名）

申込締切：7 月 20 日



■予定表■

日付	行動予定	宿泊
8/27（土）	成田発 モスクワ着	モスクワ
8/28（日）	市内観光 モスクワから列車でゴメリへ	列車泊
8/29（月）	ゴメリ：環境センター	ゴメリ
8/30（火）	ゴメリ：環境センター・州立病院	ゴメリ
8/31（水）	ゴメリ：環境センター・ チェチェルスク地区病院	ゴメリ
9/01（木）	ゴメリ：医科大学学生交流 ゴメリから列車でモスクワへ	列車泊
9/02（金）	「黄金の環」ピクニック	スーズダリ
9/03（土）	モスクワ発	機内泊
9/04（日）	成田着	

※ 4 月からツアーに向けて企画会を開いていきます。

< 問い合わせ、申し込み先 >

JCF・日本チェルノブイリ連帯基金

〒390-0303 松本市浅間温泉 2-12-12

TEL. 0263-46-4218 FAX. 0263-46-6229

JCF/日本チェルノブイリ連帯基金

●本部 〒390-0303

長野県松本市浅間温泉 2-12-12

TEL 0263- 46- 4218 FAX 0263- 46- 6229

E-mail jcf@jca.apc.org

Website http://www.jca.apc.org/jcf/

●東京 〒164-0003

東京都中野区東中野 4-4-1 ポレボレタイムス社気付

TEL03- 3227- 1405 FAX03- 3227-1406

●京都 〒607-8405

京都府京都市山科区御陵田山町 13-3

TEL075- 591- 7772